

昭和恐慌と世界恐慌

～戦前資本主義の構造と変化～

世界恐慌と昭和恐慌

▶ 世界恐慌（大恐慌・大不況）

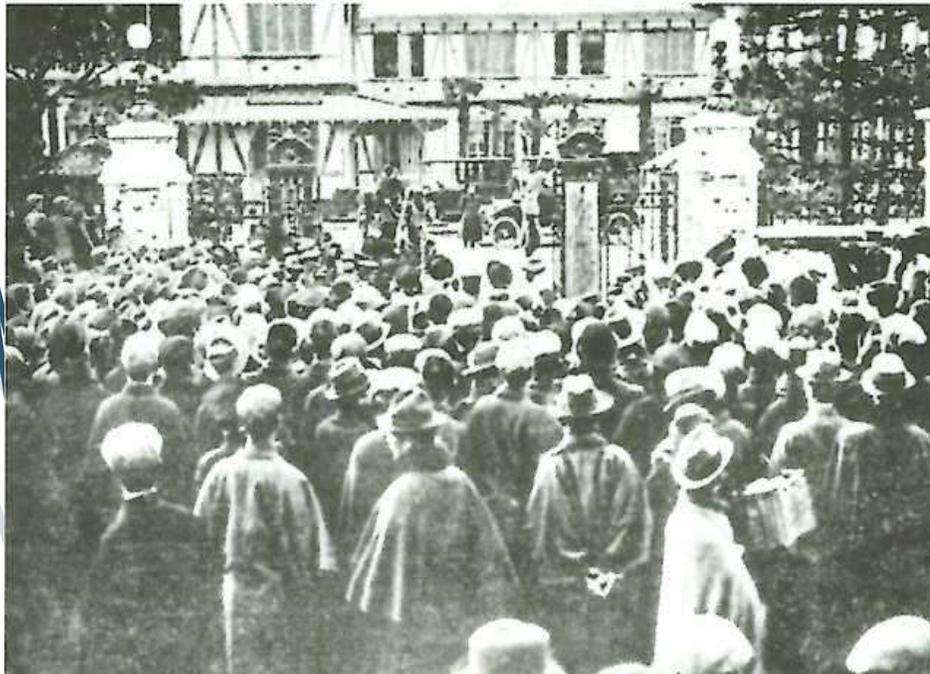
- ▶ 1929（昭和4）年10月のニューヨーク株式市場大暴落をきっかけに、世界的規模に波及した大不況。
- ▶ →世界は、自国第一主義の立場から保護主義、勢力圏確保にはしる
- ▶ →第二次世界大戦のきっかけとなる。

▶ 昭和恐慌

- ▶ 1930年（昭和5）1月の浜口雄幸内閣の**金解禁政策**と世界恐慌のタイミングが重なり発生した大不況。（「世界恐慌の日本版」ともいえるが）
- ▶ →テロなどファシズム的な流れの高まり、満州事変の発生
- ▶ →農村への巨大な被害、世界で最も早く恐慌から脱出するが

「世界恐慌と昭和恐慌」関係年表

大正～昭和初期の経済



1890～1910ごろ 産業革命

1914～1919 大戦(後)景気

1920年代 「不機嫌な時代」

1920 戦後恐慌

1923 震災恐慌

1927 金融恐慌

1929 7月 浜口内閣成立(井上財政)

10月 NYで株価大暴落(世界恐慌へ)

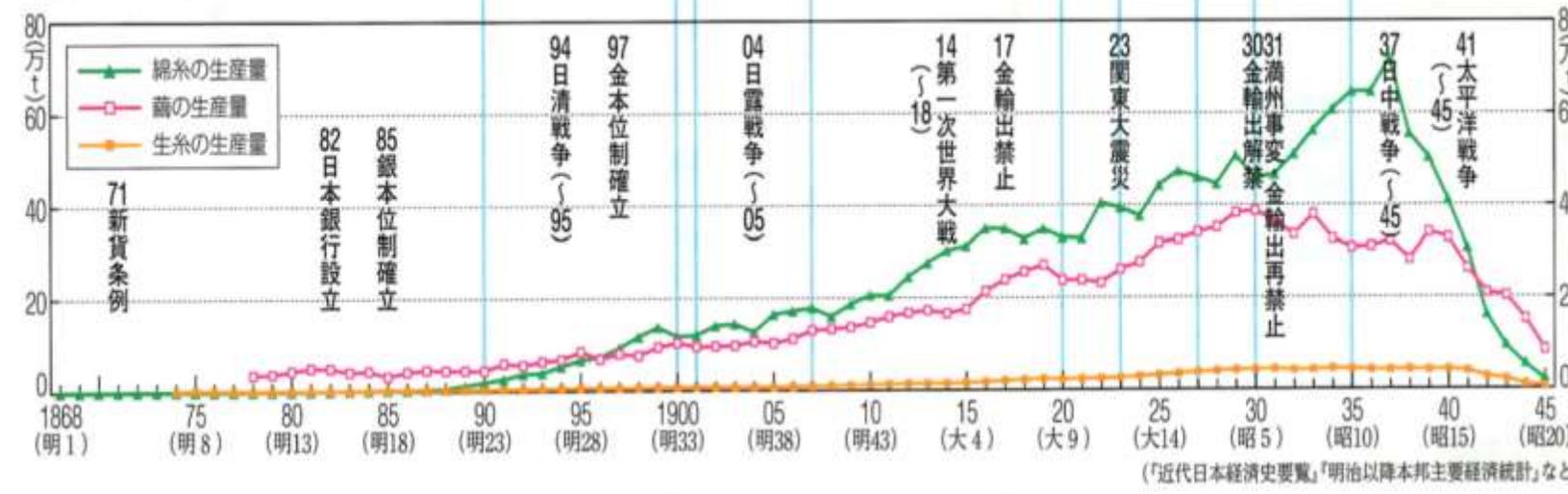
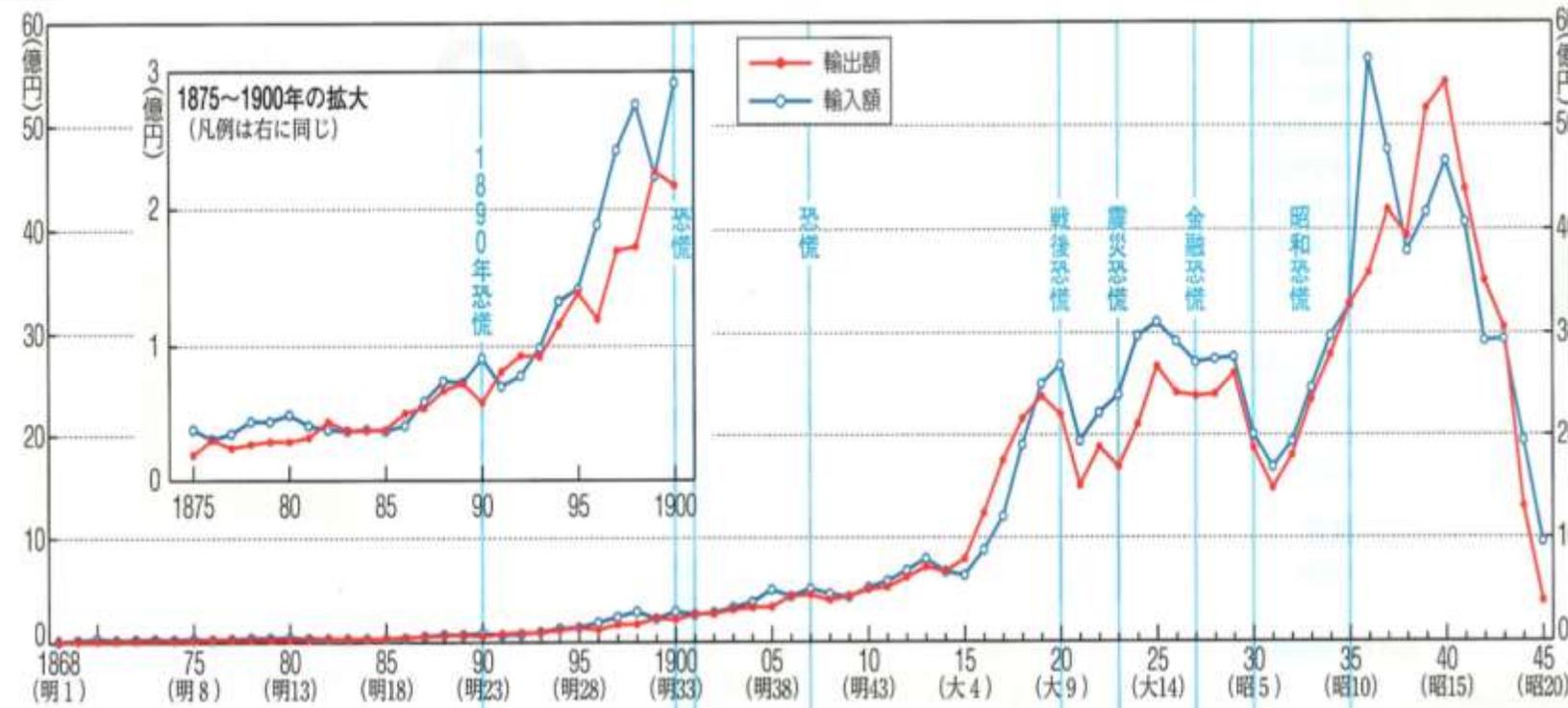
1930 昭和恐慌(1月金解禁～)

1931 12月犬養内閣成立
(高橋財政=金輸出再禁止)

→恐慌脱出へ(軍国主義化)

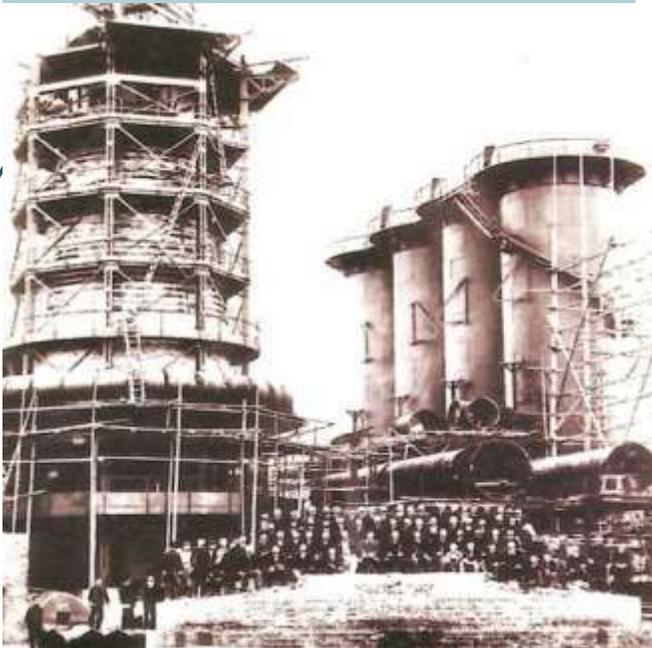
1935 恐慌前の水準への回復
(ただし農業恐慌はつづく)

昭和恐慌にいたる日本経済のようすを概観しましょう。



産業革命 期の 経済構造

「講座派」的説明



➡ 日本の産業革命の発生

(1880年代後半～日露戦争後)

基礎：農村における地主・小作関係

→低賃金無権利の労働力を都市・工場へ

→それを利用した安価な製品を供給

→鉄道や工場へ地主資金を供給

矛盾：貧しい農村、都市の未発達

→需要が小さく、国内ではあまり売れない

→海外に輸出しようとする→海外市場へ

(経済の軍国主義的性格)

地主小作関係
高額小作料
地主への社会的隷従

地主
寄生地主
大地主
中小地主（地自作）

政治的影響力
高額小作料

自作農
貧農層
小作
小自作
自小作

農村における半封建的關係

低賃金で無権利な労働者の存在
日本資本主義の発展の基礎→安価な製品生産を実現

資本家
工場主

工場労働者
(製糸・紡績など)

都市貧困層

生糸綿糸など

安価な工業製品

安さを武器に海外市場に進出

炭鉱山・タコ部屋労働など

世界市場
(アメリカ・中国などアジア)

海外進出への欲求 = 日本経済の軍国主義的性格

国内市場の狭さ
市場を海外に求める

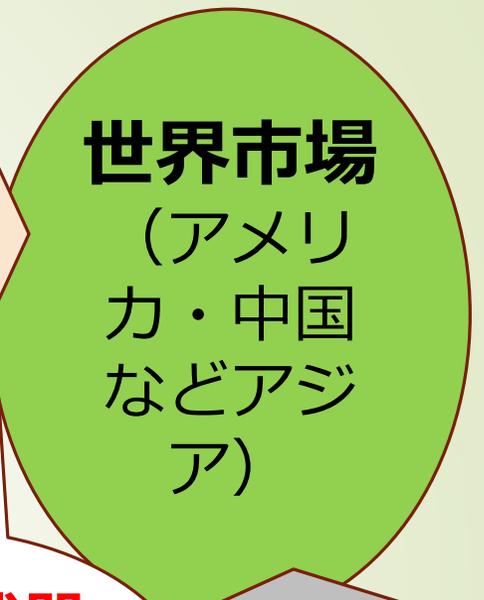
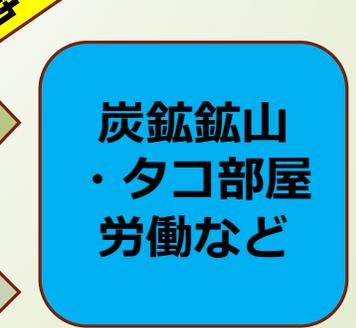
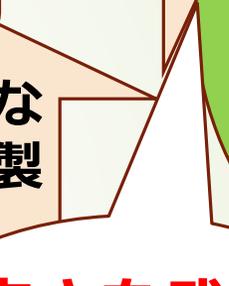
地主への社会的隷従
働きに出す

賃金
勤労

流出・出稼
農村への労働力供給

低賃金

劣悪な条件



日本経済 の三本柱

▶ 製糸業（「幕末以来の四番バッター」）

→国内産の原料を使い、多くを輸出

• 綿工業（「外人選手顔負けの豪腕」）

→近代化された大工場の大量生産

→輸入原料の使用・輸入代替→輸出へ

• 軍需産業（「甘やかされたエリート?!」）

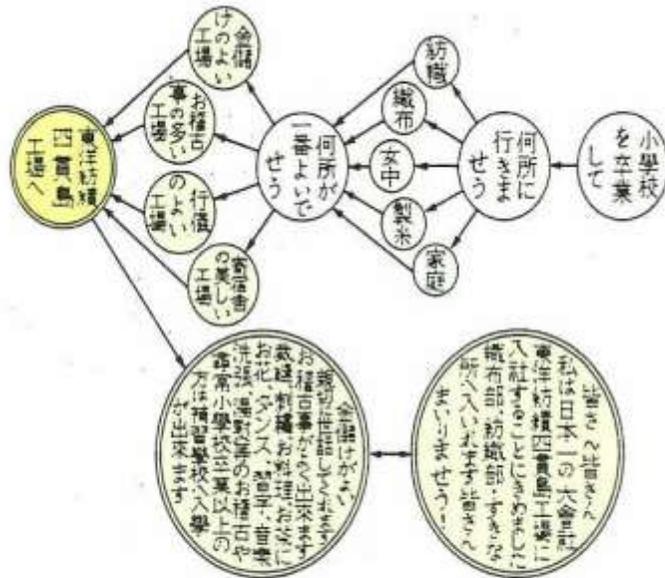
官営→民間へも波及へ

膨大な下請けなどの存在 = 中小企業

• その他の重要産業

銅山（足尾など） = 輸出中心

食品工業（とくに酒造・醸造など）



▲女工の募集広告

絶対エース 製糸業 と 養蚕・絹織物



▲岡谷製糸工場 長野

養蚕業

傾斜地などで桑を栽培、カイコに桑を与え、繭をつくらせる
農家の副業として全国に広がる

不景気には値下げを強要される

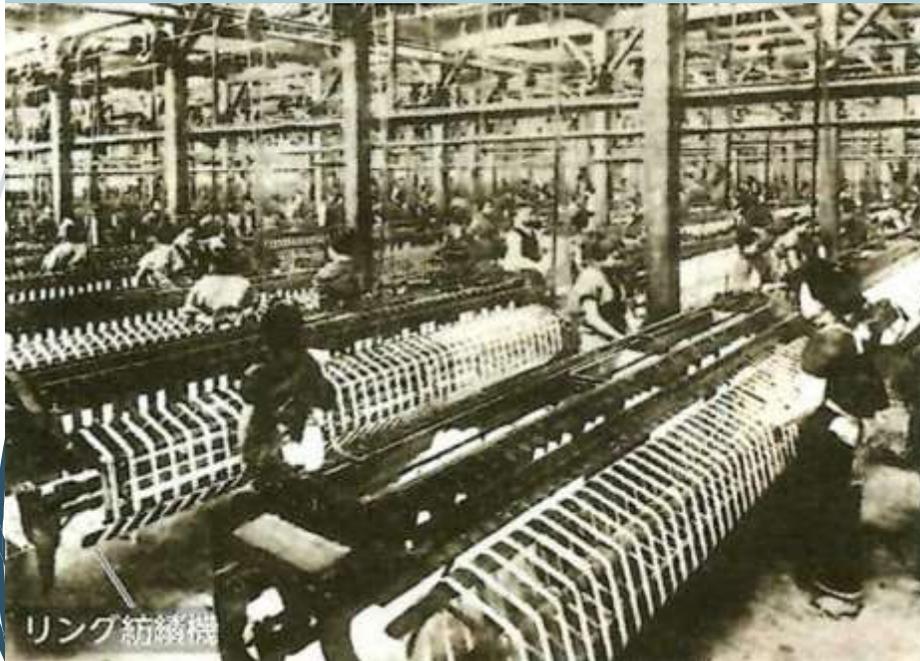
- ↓
- ・ **製糸業**...繭から生糸を紡ぎ出す・中小工場が担い手
貧農の子女を低賃金・無権利で働かせる

「ああ野麦峠」の世界

→生糸の多くは海外、とくに**アメリカへ輸出**

- ↓
- ・ **絹織物業**...生糸をもとに絹織物を生産
西陣織、結城紬など→国内富裕層中心
福井などの羽二重→輸出向け

近代化された大工場 綿紡績業 綿織物業



1882(明治15)年 渋沢栄一と大阪の資産家により**大阪紡績**(株) 設立

最新鋭の紡績機を使用する大規模工場

大阪は「東洋のマンチェスター」に

- ・未熟練女工の労働が可能に
長時間・低賃金労働の大量導入
農村貧困層の子女→沖縄・朝鮮出身者

- ・中国産（低価格）のちインド産（高品質）の綿花の使用 = **大量の輸入**が必要

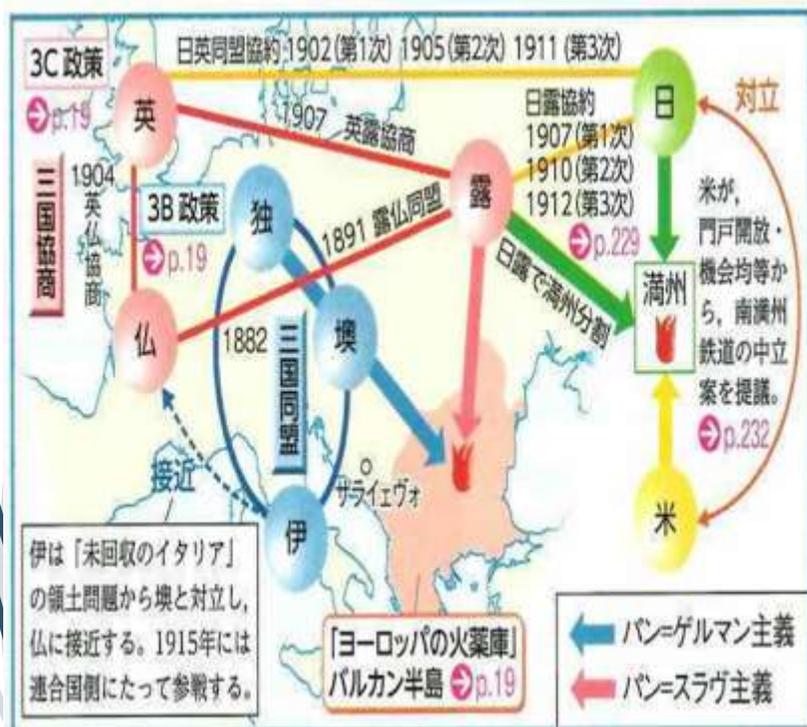
- ・国内の使用 = **輸入代替産業**、
のち**輸出（アジアとくに中国）の中心に**
→綿織物業なども発展

産業の発展は単純に貿易収支プラスとはいえない

日本経済の激変

第一次世界大戦

1914~18



おもな戦場はヨーロッパ（「**欧州戦争**」）

協商国（イギリス・フランス・ロシア）
+ 日本、イタリア、アメリカ、中国他

日本は参戦するが、戦場から遠い

V s

同盟国（ドイツ・オーストリア）
+ オスマン帝国・ブルガリア

アメリカの参戦は1917年。英仏が敗れ債務不履行となることを恐れたため。

戦争の状況

- ① フランス東部などで膠着化→長期戦化
- ② **総力戦**

「国内の物的・人的資源を総動員する必要」
すべてつぎ込まないと勝てない！

第一次大戦の 経済的意味



- ・ **ヨーロッパからの輸入が停止**
→ アジアやロシアなどでも物資不足に
→ ヨーロッパでの工業製品や食料品が不足
- ↓
- ・ **輸入代替産業発達** = 化学工業・金属・機械
- ・ **アジア・ヨーロッパの需要** = 綿紡績・造船
- ・ **貿易の活発化と船不足** (輸送費の急騰)
→ 船運業・造船業の隆盛

↓
大戦景気の発生

製品生

数字の変化の大きさに注目！

ンキ

まずは大戦景気による変化をみましょう

『日本経済史』

1914		1919		1929	
綿糸	204 出・内	生糸	780 出	生糸	158 出
生糸	158 出	綿糸	763 出・内	鉄道	152 インフラ
鉄道	152 インフラ	小幅織物↓	453 内	綿糸	149 軍需
軍工廠	149 軍需	石炭	442 旧エネ	電力	92 内
小幅織物	92 内	鉄道	401 インフラ	広幅織物	80 旧エネ
石炭	80 旧エネ	小幅絹織物↓	397 内	鉄鋼	70 内
清酒	70 内	海運↓	378 好況	清酒	69 入
鉄鋼	69 入	鉄鋼	372 入×軍	石炭	64 入
非鉄金属	64 入	軍工廠	315 軍需	軍工廠	57 新エネ
電力	57 新エネ	船舶 ↓	312 好況出軍	製紙	52 内
小幅絹織物	52 内	広幅織物	312 出	↑印刷	49 内消費
製糖	49 内消費	清酒	240 内消費	製糖	29 入
原動機	29 入	電力	183 新エネ	↑製紙	29 内文化
製紙	29 内文化	製紙	151 内文化	↑毛織物	28 内消費
毛織物	28 内消費	毛織物	122 内消費	肥料	26 内文化
印刷	26 内文化	肥料	111 入×化農	↑広幅絹織物↓	25 内消費
小麦粉	25 内消費	製糖	104 内消費	↑工業薬品	25 入化農
肥料	25 入化農	↑燃糸	101	↑製材↓	20 出
広幅織物	20 出	非鉄金属	98 入×軍	非鉄金属	

生糸は5倍弱、綿糸は4倍弱

軍需関連など海運・造船など船成金の登場

広幅織物は洋服・輸出にも対応 小幅は和服

凡例

<製品名>

赤系統：重化学工業

緑系統：綿系統工業

黄系統：絹系統工業

<数字>

ゴチ：大きな変化

着色：顕著なもの

<備考>

出：輸出関連

入×：輸入停止

内：内需関連

大戦 景気

第一次世界大戦(1914(T3)~18(T7))
をきっかけにした好景気

<原因>

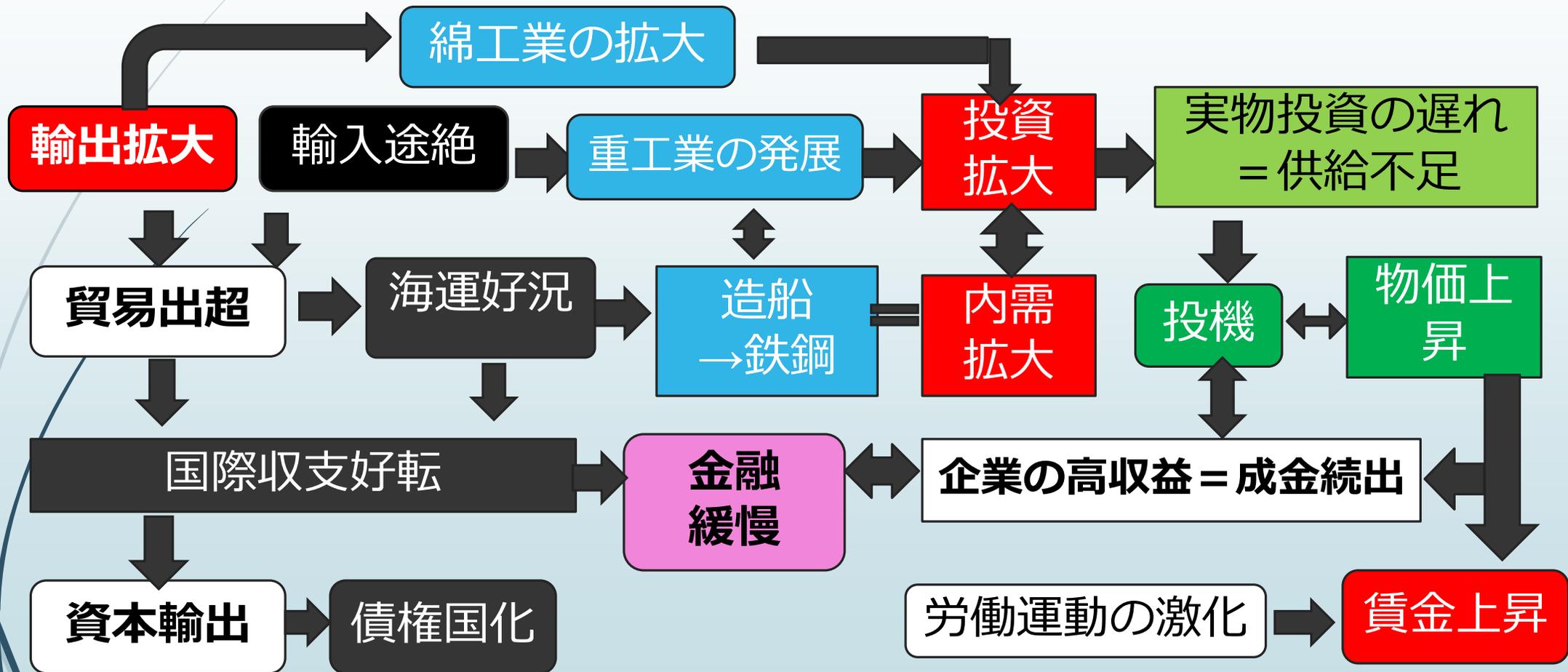
- ▶ ヨーロッパから日本やアジアへの輸出品がこなくなった。
- ▶ それどころか、日本からの商品も大量に買ってくれる
- ▶ さらに戦争でアメリカが大もうけする。



(大戦景気)

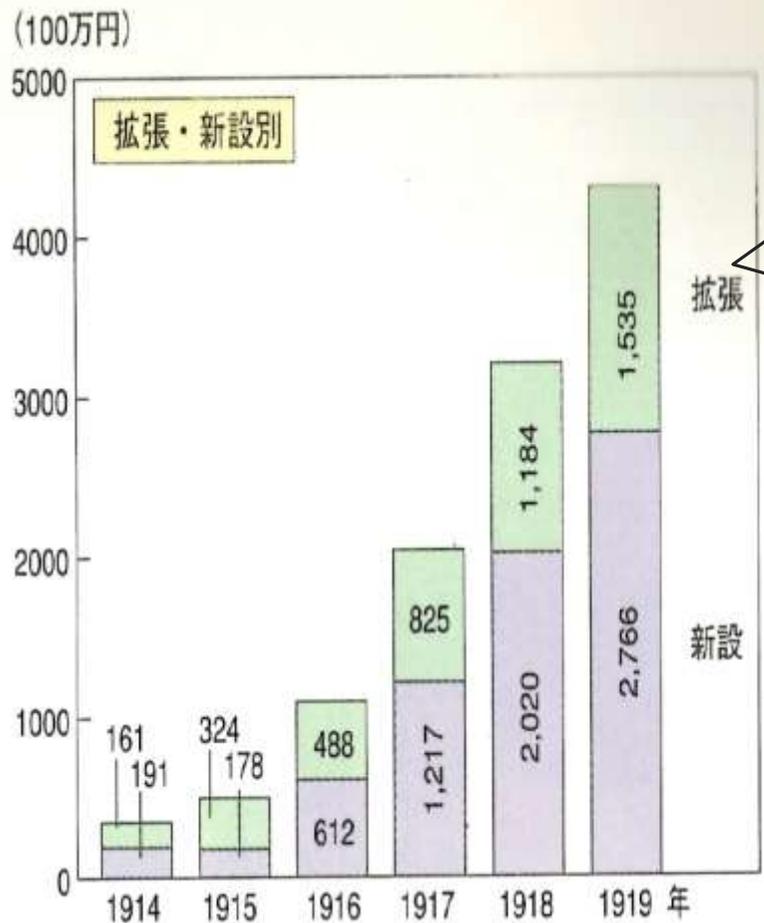
大戦ブームのメカニズム

武田晴人「日本経済史」より



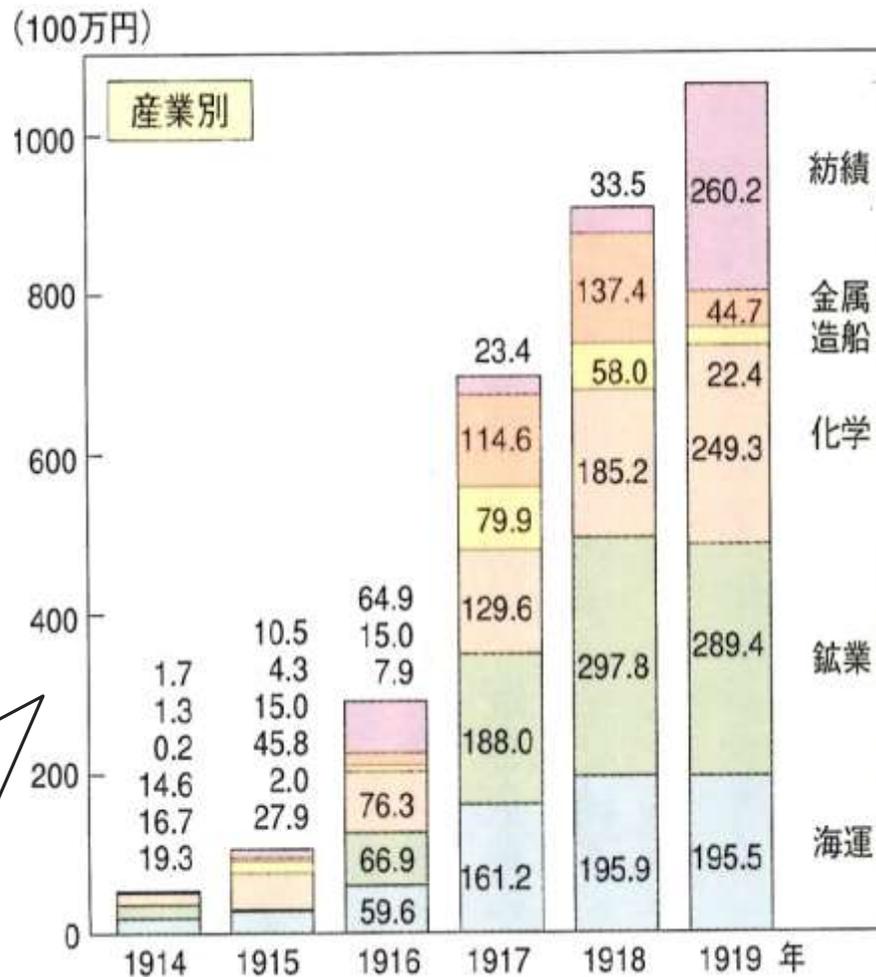
(大戦景気)

事業計画資本の増加



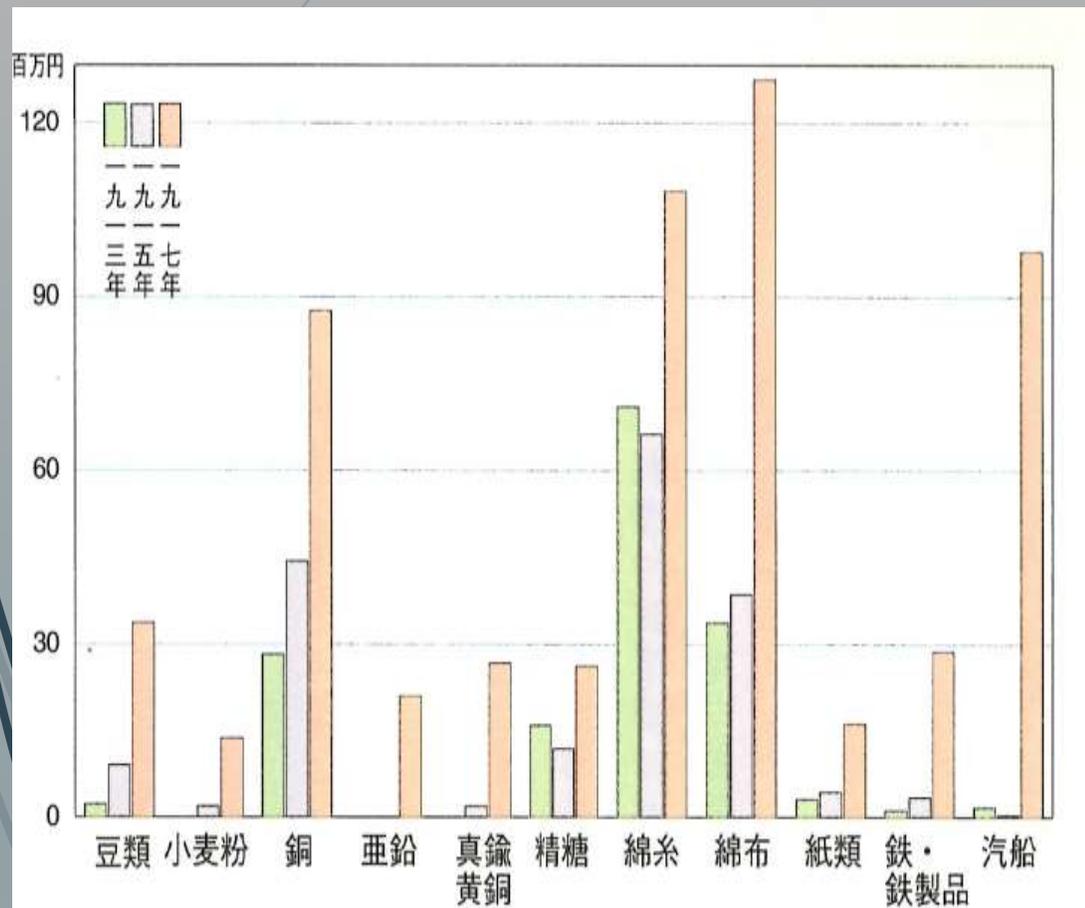
急激な事業
拡大
後期になっ
て新設も目
立つ

前半では海運
造船、鋳業、
そして化学、
金属、造船、
19年には紡
績の伸びが目
立つ



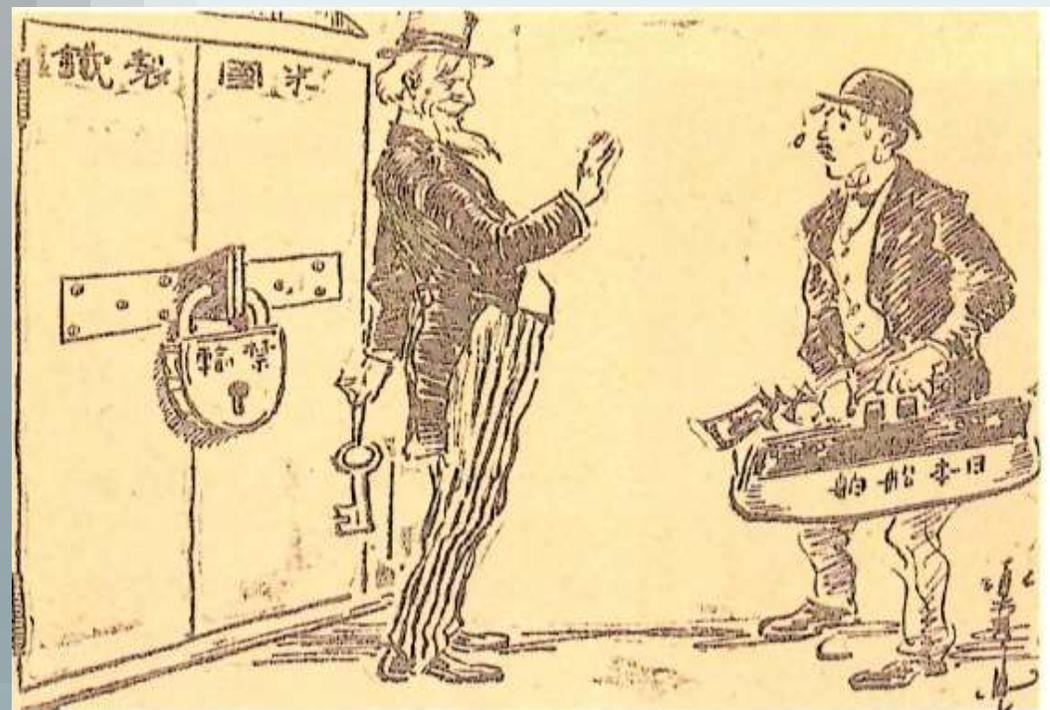
大戦景気

輸出額の急増



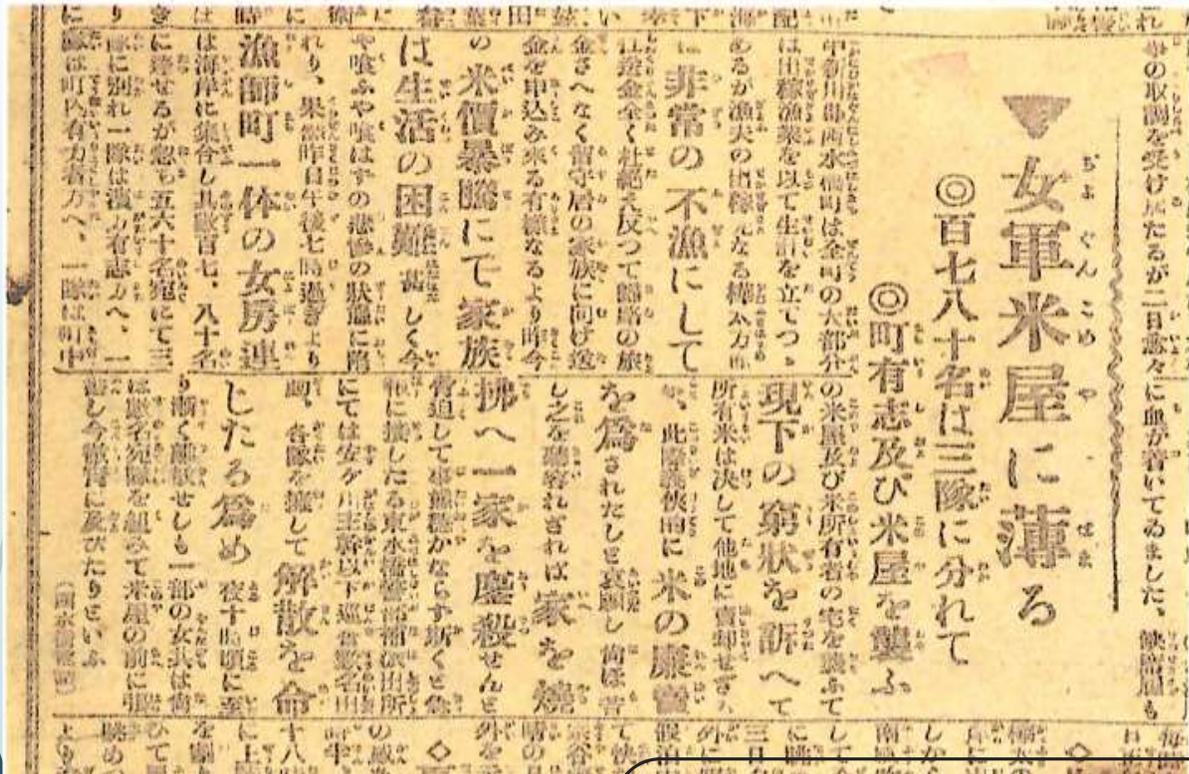
いずれの分野でも輸出が急増したことがわかる

いくら札束を積んでも、鉄鋼や金属は売れないよ！
(BY アメリカ)



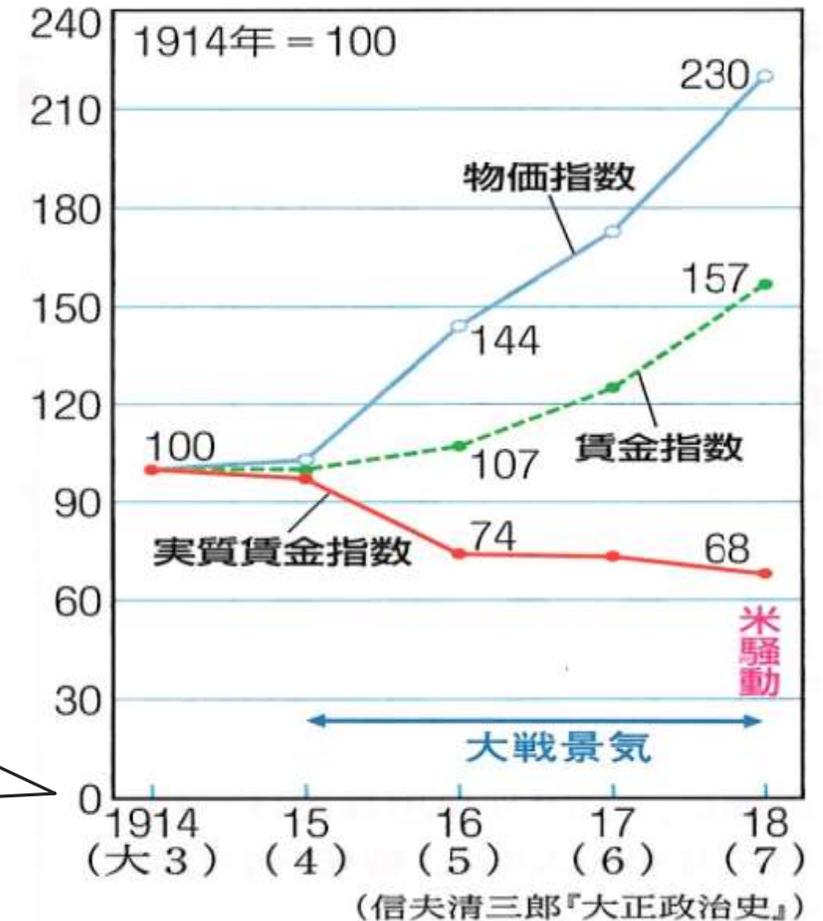
大戦景気

物価上昇・実質賃金の低下と米騒動



賃金が上がっても、日給で生きてるものには届かない。
しかも実質賃金は下がる！

B 民衆の窮乏



大戦景気の結果



- ▶ **債務国から債権国**に（「不胎化」政策と資本輸出）
- ▶ 工業生産力が農業生産力を上回る
（**農業国から工業国**に）
- ▶ 工業労働者 約100万人→約150万人に
（**都市化の進展**）
- ▶ 男子の工場労働者（とくに熟練工）の増加
（←未熟練・若年女工）
- ▶ ヨーロッパ製品の一時退場による**バブル経済**
→**過剰生産・設備投資・雇用拡大、大量の起業**
- ▶ 需要増を設備投資でなく、雇用拡大・労働強化で
→**生産性の低さ・賃金負担の大きさ**
（20年代不況の背景）
- ▶ インフレによる物価（とくに米価）騰貴と賃金上昇の遅れ
米騒動（1917） →**不況 = 物価下落** →**実質賃金上昇**

1920年代。 不景気な時代?!

数字の変化は少ない
生糸780→795
綿糸763→678 (※)

都市における鉄道関連
事業の発展
「文化」「消費」の伸
長に注目

電力の急伸
エネルギー面における石
炭との地位の交替

軍縮の影響も
鉄鋼も伸び悩み
船舶はランク外に

都市化・大衆消費社
会の誕生?

化学肥料の着実な
増加 = 農村の変化

凡例
<製品名>
 赤系統：重化学工業
 緑系統：綿系統工業
 黄系統：絹系統工業
<数字>
 ゴチ：大きな変化
 着色：顕著なもの
<備考>
 出：輸出関連
 入×：輸入停止
 内：内需関連

		1919		1929		1937	
内	生糸	780	出	生糸	795	出	生糸
	綿糸	763	出・内	鉄道	750	都市・インフラ	綿糸
フラ	小幅織物 ↓	453	内	綿糸	678	出・内※	絹
	石炭	442	旧エネ	電力	658	新エネ	炭
	鉄道	401	インフラ	広幅織物	526	出	広幅織物
ネ	小幅絹織物 ↓	397	内	鉄鋼	378	軍縮?	生糸
	海運 ↓	378	好況	清酒	301	内消費	工業
	鉄鋼	372	入×軍	石炭	245	旧エネ	石炭
	軍工廠	315	軍需	軍工廠	208	軍縮	軍縮
ネ	船舶 ↓	312	好況出軍	製紙	190	内文化	↑手
	広幅織物	312	出	↑印刷	186	内文化	印刷
費	清酒	240	内消費	毛織物 ↓	176	内消費	毛織物
	電力	183	新エネ	製糖 ↓	158	内消費	製糖
化	製紙	151	内文化	↑小麦粉 ↓	146	内消費	↑小麦粉
費	毛織物	122	内消費	肥料	132	内農業	↑電気機械
化	肥料	111	入×化農	↑広幅絹織物 ↓	130	出	296 重工
費	製糖	104	内消費	↑工業薬品	115	化学	
農	↑撚糸	101		↑製材 ↓	112	内震災?	
	非鉄金属	98	入×軍	非鉄金属	102	軍	

大戦景気

1920年代・軍縮

昭和恐慌・満州事変・日中戦争へ

1920年代 在華紡の発展

年	総計 (A)	中国人 経営	日本人 経営(B)	$\frac{B}{A}$ (%)
1921(大10)	323	212	85	26.2
1922(〃11)	355	222	107	30.2
1924(〃13)	358	218	122	34.0
1925(〃14)	357	205	133	37.3
1927(昭2)	369	210	138	37.6
1929(〃4)	420	239	165	39.3
1931(〃6)	490	273	200	40.9

単位：万錘

(『近代日本経済史要覧』)

在華紡とは 中国で日本人が経営する紡績会社

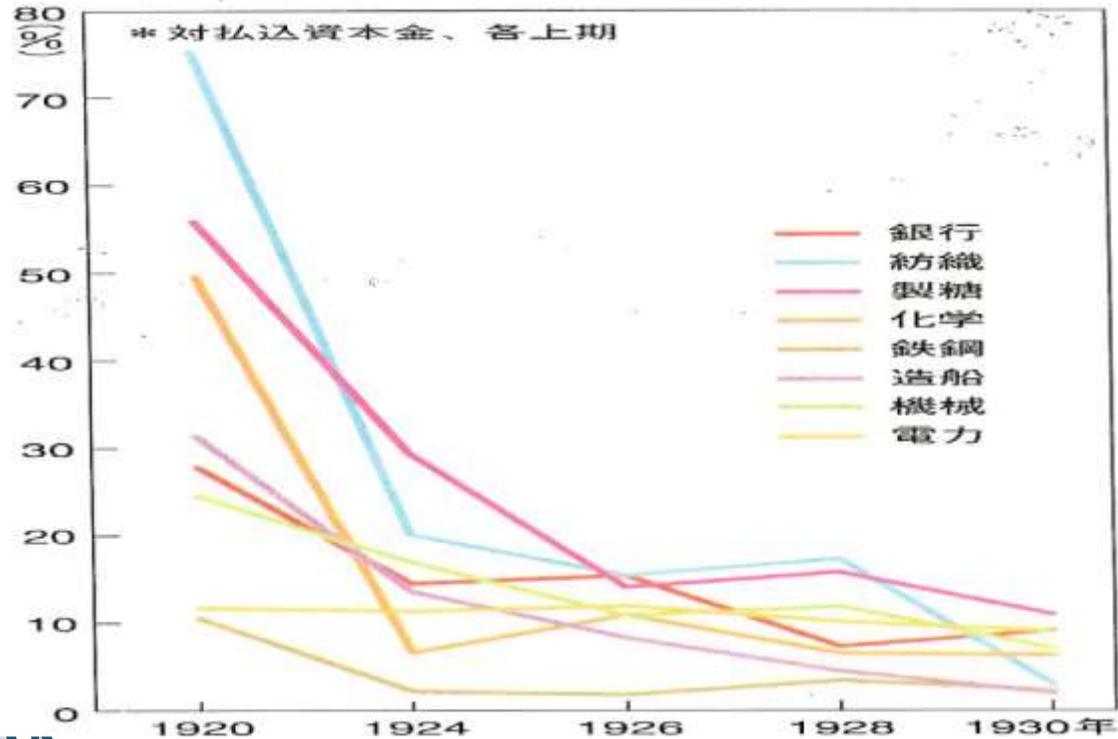
日本国内での24時間二交代制が禁止などコスト上昇に押される形で、中国に進出した。

日本式経営を持ち込むことで、中国人労働者の反発を買うことも多く、民族運動のきっかけとなることも多かった。

1920年代

部門別利益率の低下と負債の増加

利益率（もうけ）を示したグラフ



欧米の復活・市場回復やアジアでの民族資本発達などにより利益率は急速に低下つまり儲からない！

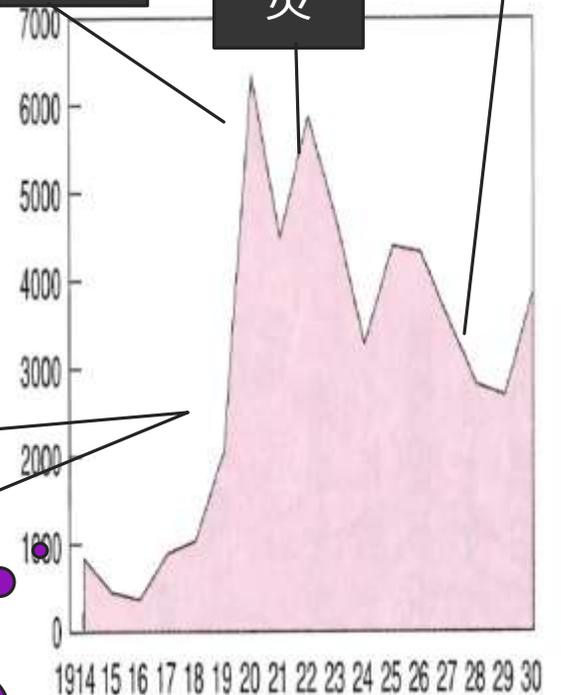
逆に負債は増えていき、企業にも銀行にも負担感が増す

貸し渋り・高金利の発生

戦後恐慌

関東大震災

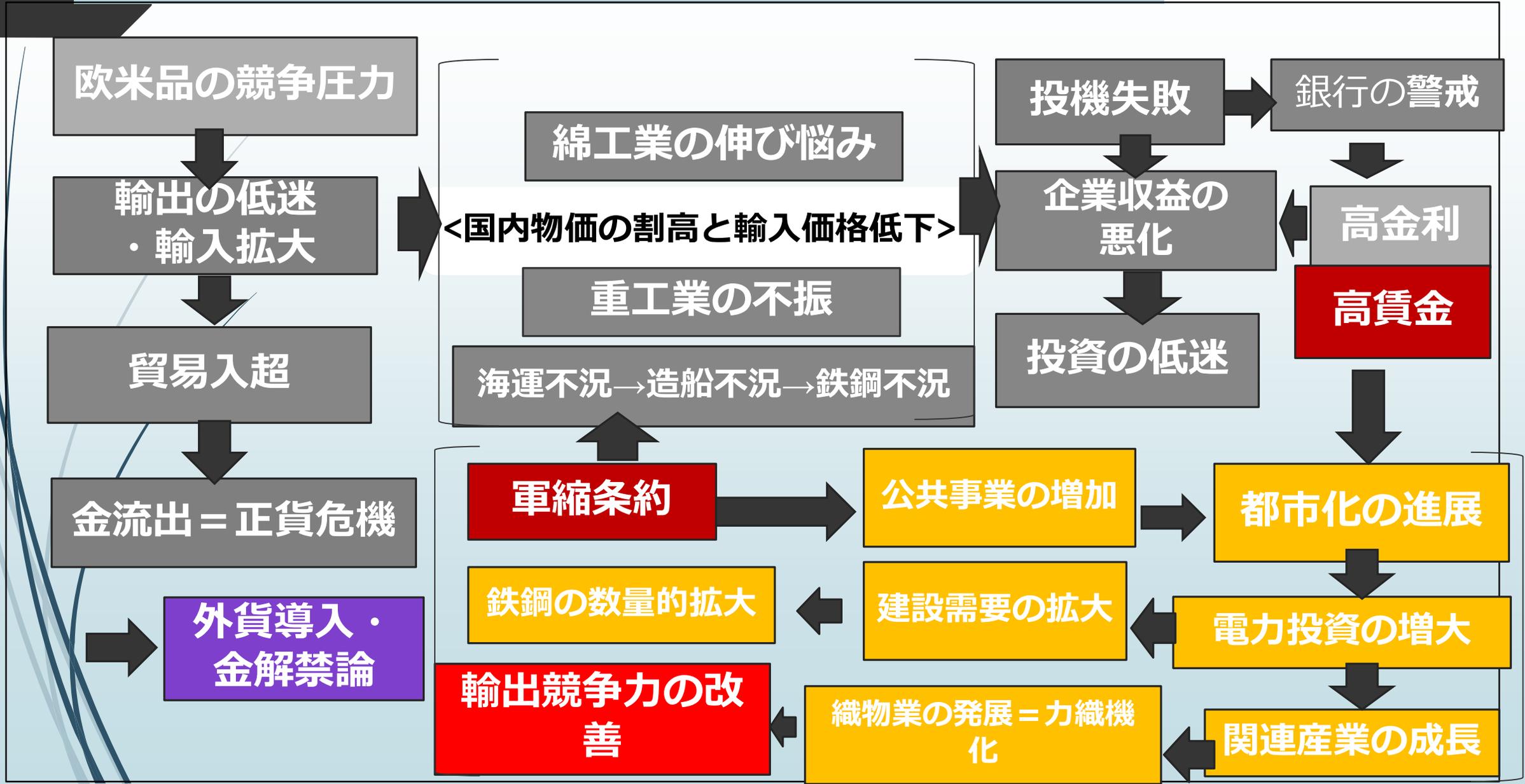
金融恐慌！



負債（借金）のグラフ

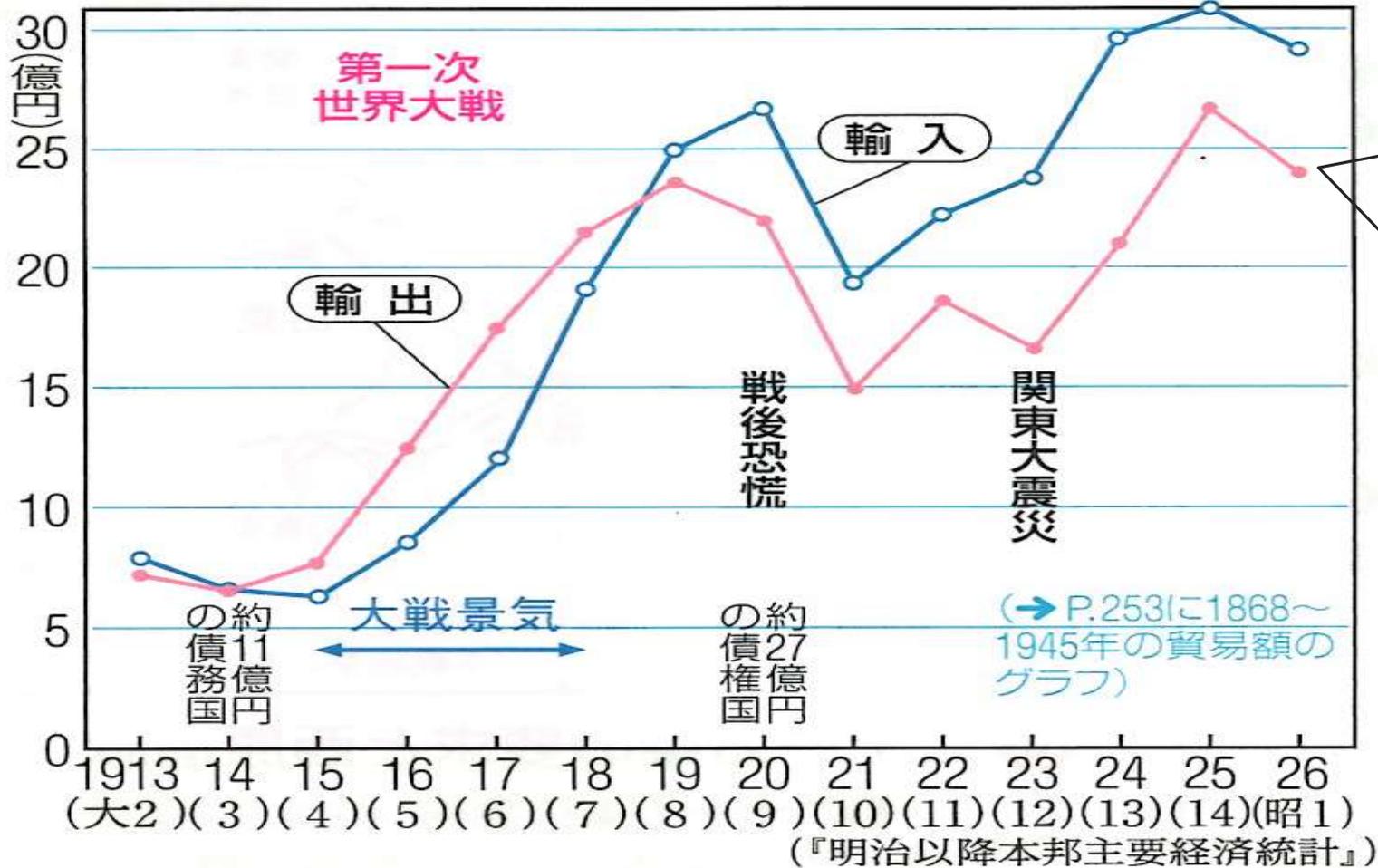
1920年代の経済構造

武田晴人の説明を元に作成



1920年代

貿易額の推移

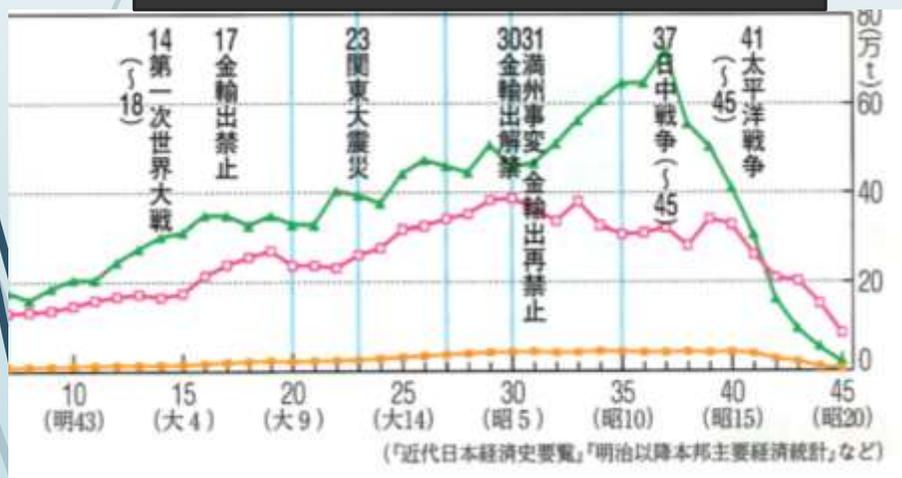


貿易額は、恐慌や震災もあって上下しつつあるが、全体としては伸びつつある。問題は**貿易赤字**。

「落ち込み」ではなく、「**停滞**」であったことがわかる。

1920年代の 「高度成長」

主要製品の国内生産高



緑：綿糸、赤：繭、黄：生糸

- ▶ 大戦景気の変化を引き継ぐ = 「停滞」はしているが・・・
- ▶ 産業→社会構造→ライフスタイルの変化
 - 農業社会→都市中心へ（人口の都市への大移動）
 - 軽工業（とくに生糸）から、重化学工業へ
 - エネルギー革命（蒸気→電力）
 - 労働者階級の大量出現（女工・雑業層→男子熟練工）
 - 第三次産業（サービス業）の広がり
 - 知識層の広がり←中・高等教育の普及
 - ライフスタイルの変化 = 大衆社会化・「アメリカへの憧れ」

様々な格差 = 「貧富の差」 「社会の二重構造化」

「地主・小作」「有産者と職工など貧民層」

財閥など大企業と中小企業→産業の二重構造化がすすむ

知的・管理的・事務的労働と、職工・女工などの肉体労働

男性と女性、被差別部落住民

「内地人」と「外地人（朝鮮人・台湾人）」

→社会の矛盾への怒り = 労働運動、農民運動、

女性解放運動・部落解放運動、民族運動、マルクス主義

さらには軍部内部・右翼における国家社会主義（ファシズム）運動へ

会社の規模と賃金は比例する

二重構造

第一次大戦が始まった年

昭和恐慌の真っ最中

事業所の規模と賃金が正比例の関係にある

事業所の規模と賃金は比例しない。

一番賃金が安いのは職工30人～500人規模。

つまり製糸工場や紡績工場などの多いゾーン

大企業と中小企業の二重構造が成立したことを示す。

1914年			1937年		
規模(職工数) (人)	一日賃金 (銭)		規模(資本金) (百円)	年間賃金 (円)	
5-10	40	100	-1	174	100
10-30	37	93	1-5	202	116
30-50	35	88	5-10	223	128
50-100	36	90	10-20	257	148
100-500	36	90	20-50	304	175
500-1000	39	98	50-100	363	209
1000-	40	108	100-500	453	260
			500-1000	534	307
			1000-5000	566	325
			5000-	671	386
		95	平均	433	249

(武田晴人『日本経済史』 p216)

ある農民の収支決算 俺たちの仕事、手間賃に換算したら？

小作収支報告書(岐阜県稲葉郡鶉村1924年、中部日本農民組合理由書添付資料)

出典：大門正克「近代日本と農村社会」

収入		支出	
玄米2.1石	84.00	小作料(1.5石)	60.22
屑米	0.91	種子代	0.50
その他	6.90	自給肥料	5.17
		金肥	2.86
		諸雑費	1.69
計	91.81	計	70.22
		差引残	21.69
		換算一人あたり手間賃	0.899
		農業手間賃	2.50
		全国最低水準	1.50

こいつが大きすぎる！これをへらして都会の労働者並みの手間賃に！

計算してわかった小作農民、一日当りの手間賃

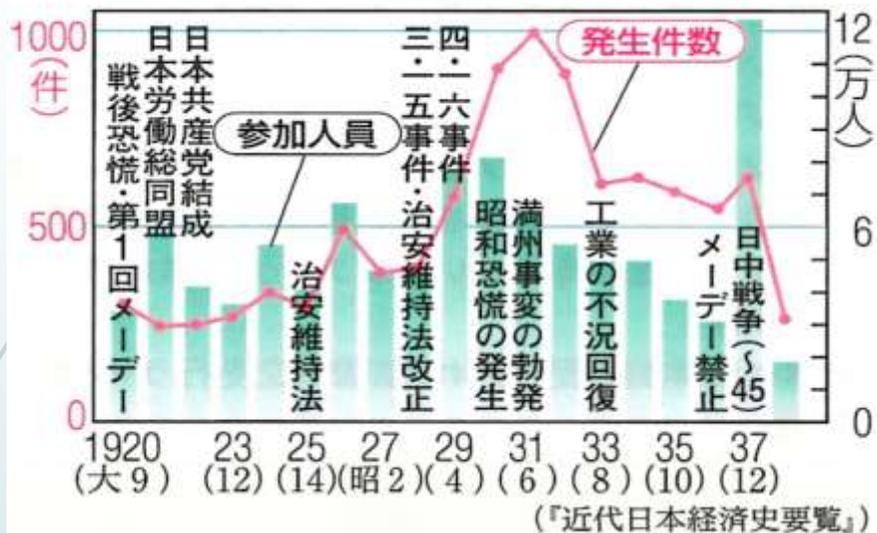
この地域、一日あたり
の手間賃の相場

全国の最低水準でもこの位！

こういう状態だから、娘を女工に出したり、出稼ぎにいたり、いろいろな収入の口を探すことになっていた。

2.50 1924年鶉村の水準
1.50 組合の主張

1920年代 社会運動の活発化



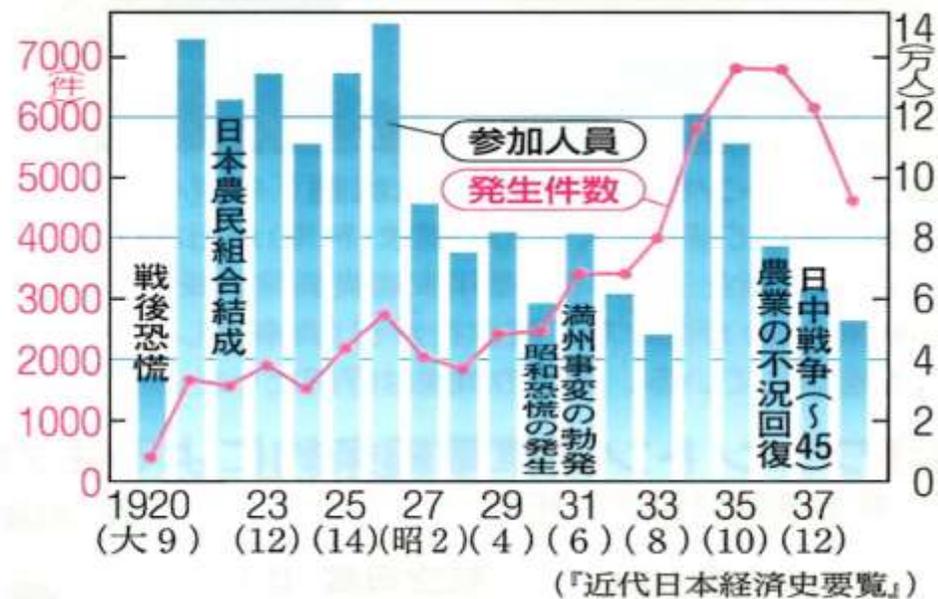
労働争議の増加

「賃上げ」「労働者の人格権」「団結権」など攻勢的要求
 →大企業では労使協調的方向も
 →中小企業では急進化

小作争議の活発化

西日本中心・大規模
 米価急騰にもかかわらず高率小作料

「小作料軽減」や「耕作権獲得」が目標



20年代の「停滞」

変化の途上



■ 経済構造変化の途上。
重工業化しつつあるが未発達

→競争力のなさ

・ 大戦景気時の供給過剰と需要の低さ

→不良債権からくる金融システム不調

→生産性の低い施設と人員過剰感

・ 地主小作関係・低賃金を背景とする国内市場の狭さ

・ 中国での民族主義の高まり

民族資本の成長

「日貨排斥」→協調外交下では下火に

関東大震災の発生 (1923・T12)



建物18.7億円
 家財什器8.7億円
 工場2.4億円
 商品21.4億円
 計52.7億円の被害

不能になった取引の決済を延期など救済資金を提供
 (「震災手形」)

以前からの不良債権も「震災手形」で延命させる!



(鹿島建設小堀研究所 武村雅之など)

①家屋の被害	
全焼・流失	21万3654戸
全壊	10万9713戸
半壊	10万2773戸
小計	42万6140戸
②罹災者 <small>りさい</small> (総数約340万人)	
死者	} 10万5385人
行方不明	
負傷者	10万3733人
小計	20万9118人

(武村雅之「関東大震災」)

東京渡邊銀行の破綻を
藏相、突如言明す
昨日衆院豫算總會の席上で
當の銀行の營業中に



①片岡直温蔵相*

震災手形をなんとかしなければ大変だ！
ソフトランディングさせねば

「震災手形」（不良債権）
処理は政友会とも合意済み。
政争にしないはずなのに

とりあえず預金を出して！

3月にひきだされた 預金引き出し額約
1億円、4月危機で引き出されたのが
6億円。ちなみ1927年末の全国普
通銀行の総預金残高は約90億円

華族御用達の第
十五銀行はぜ
えったい大丈夫
のはず・・・！

鈴木商店と仲の
よい台湾銀行も
ヤバいらしい。



預金保険制度もない時代な
ので、なけなしの預金を
失った人々も多い

金融恐慌 1927年3月～

金融恐慌の なかで



川崎財閥の総帥、松方幸二郎像（元老松方正義の次男）。国立西洋美術館のコレクションの中心はこの人物が集めた。金融恐慌で危機に陥り、華族銀行・第十五銀行を「休業」に追い込んだ。

とりあえず、払い戻しが必要なので、日銀が紙幣を大量印刷したのですが・・・。

ひそかにかつての藩士たちが大名家に御注進したことも多かったという。

ちなみに大卒の初任給が50円ぐらい

裏白の二百円紙幣

金融恐慌

鈴木商店の倒産

- 1877年頃 ●鈴木岩治郎、嗣鈴木商店（砂糖商）を開業
- 1886 ●金子直吉入店
- 1894 ●岩治郎没、未亡人よね、柳田富士松・金子直吉の2番頭に経営を委ねる
- 1900 ●台湾の樟腦販売権を獲得
- 1902 ●合名会社鈴木商店に改組（資本金50万円）
- 1903 ●大里製糖所設立（1909年に大日本製糖に売却）、こののち各種関係会社を設立し、貿易部門も総合商社化し、一大コンツェルンに成長
- 1920 ●合名会社鈴木商店増資（5000万円）
- 1923 ●貿易部門を分離して株式会社鈴木商店（資本金8000万円、内払込5000万円）を新設、鈴木商店は鈴木合名会社（資本金5000万円）と改称
- 1927 ●鈴木商店・鈴木合名、倒産

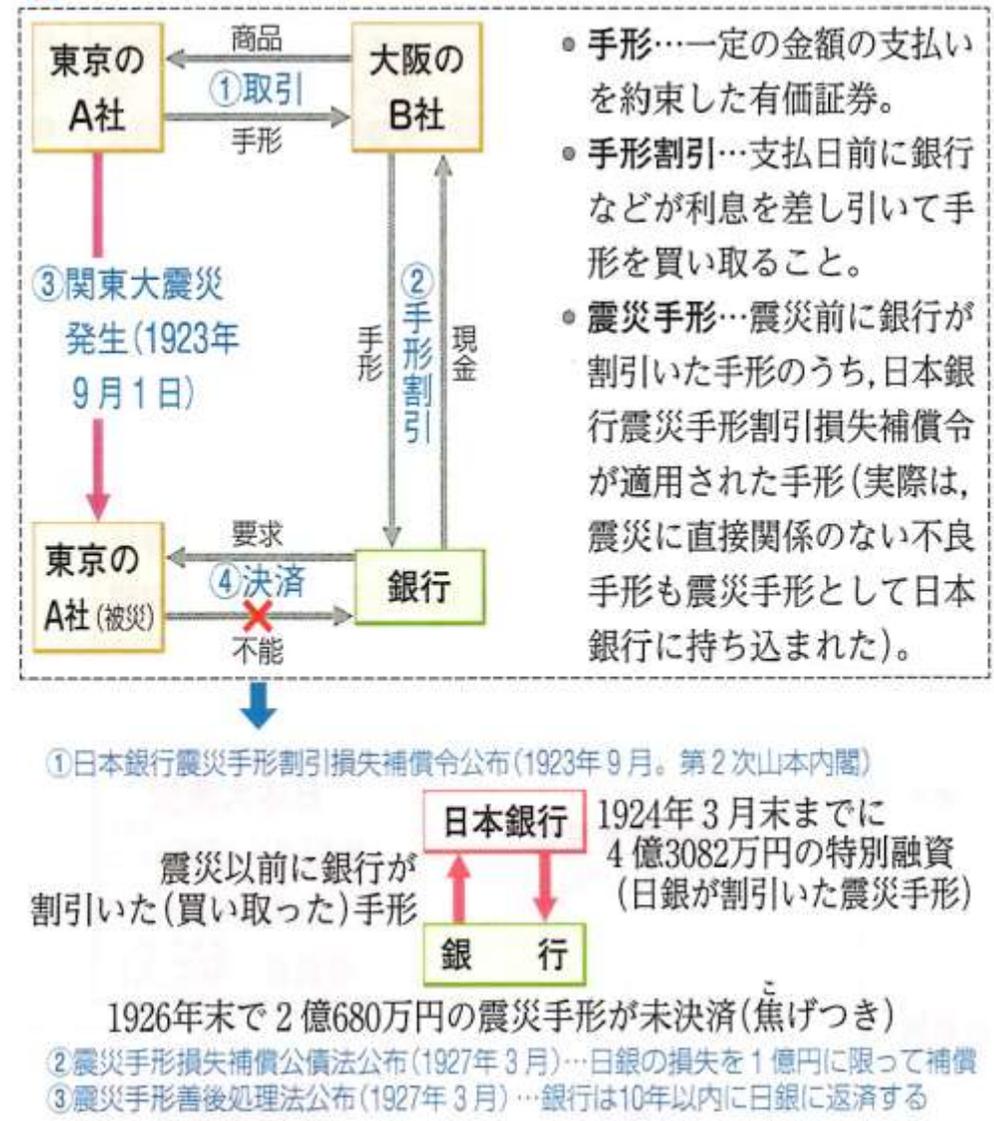
新しい分野の挑戦と
個人商店の古い体質

傘下の各社は財閥
などによって山分
けされた。

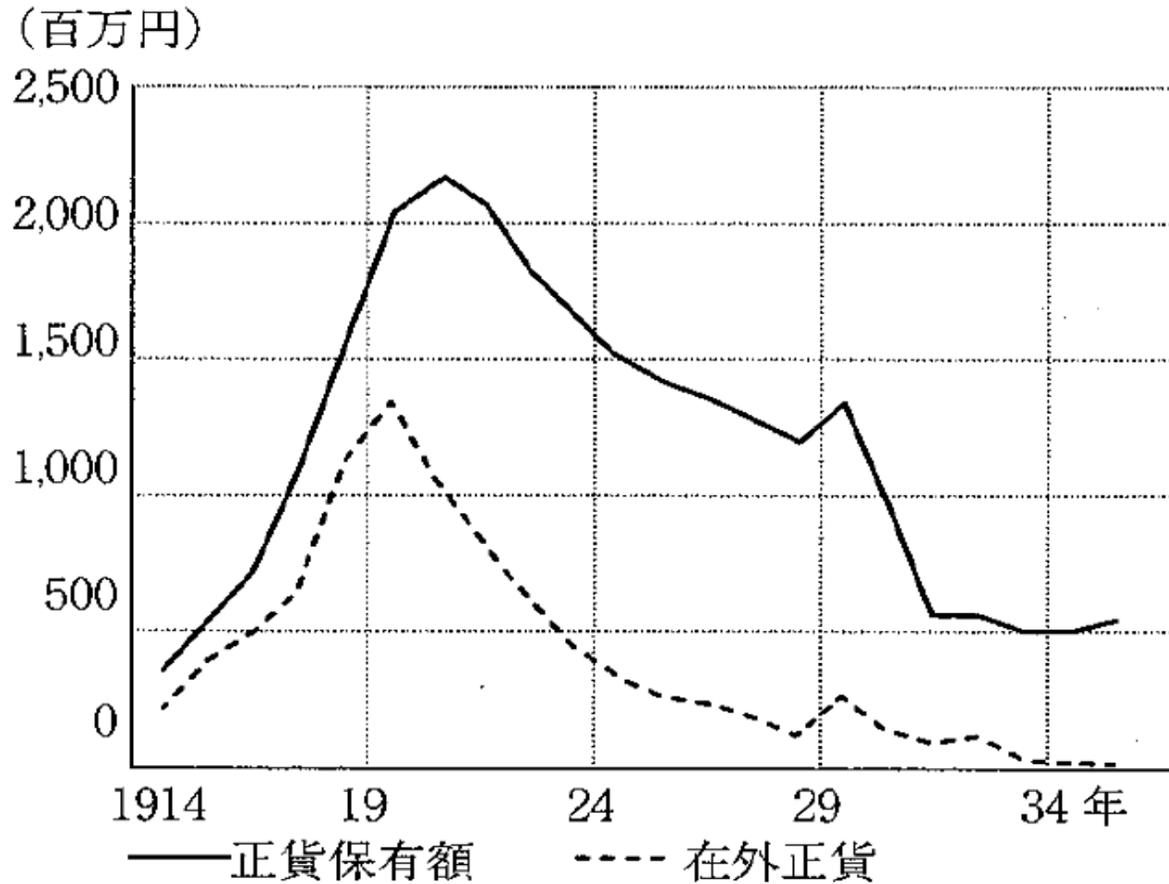
会社名	年月	資本金 (万円)	会社名	年月	資本金 (万円)
天満織物	1887.3	524	第六十五銀行	1878.11	625
日本製粉	1896.9	1,230	日本セメント	1888. 3	500
神戸製鋼所	1905.9	2,000	東京毛織	1906.11	1,600
日本商業会社	1909.2	500	東亜煙草	1906.11	580
浪華倉庫	1917.6	500	東洋製糖	1907. 2	2,203
帝国人造絹糸	1918.2	875	帝国麦酒	1912. 5	550
帝国炭業	1919.5	1,000	朝鮮鉄道	1916. 4	1,765
合同油脂グリセリン	1921.4	500	日本樟腦	1918. 2	675
クロード式窒素工業	1922.4	1,000	信越電力	1919. 5	3,200
豊年製油	1922.4	1,000	国際汽船	1919. 7	7,715
その他25社		2,670	大日本セルロイド	1919. 9	1,000
			旭石油	1921. 2	930
(35社計)		11,799	その他18社		2,524
			(30社計)		23,867
65社総計		35,666	*1926年現在で払込資本金が500万円以上の会社のみ		

金融恐慌の原因

- ・ **大戦景気以来の負債**
 - 震災とあいまって未処理のまま蓄積
 - 震災手形の形をとって不良債権化
- ・ **金融ルール・システムの未成熟**
 - 法律等の未整備
 - 機関銀行・特定企業とのつながり
鈴木商店と台湾銀行
川崎財閥と第十五銀行（松方家）
- ・ **対外正貨の払底**
 - 「隠し財源」も減ってきて
- ・ **憲政会と政友会の政争**
 - 政友本党との合併に反発
 - 片岡蔵相の失言
- ・ **明治憲法体制の構造的問題 = 枢密院**



金融恐慌 対外正貨の払底



出所) 三和良一・原朗編, 前掲『近現代日本経済史要覧
補訂版』114頁より作成。

第一次大戦中の貿易黒字分を対外正貨として保管（「不胎化政策」）。それを隠し財源として、20年代の貿易赤字を補填してきたが・・・。

金融恐慌とは何であったのか？

休業銀行預金払戻割合	
銀行名	預金払戻割合(%)
左右田銀行	50.5
中井銀行	62.2
村井銀行	58.5
中沢銀行	55.0
八十四銀行	56.0
近江銀行	66.9

結果

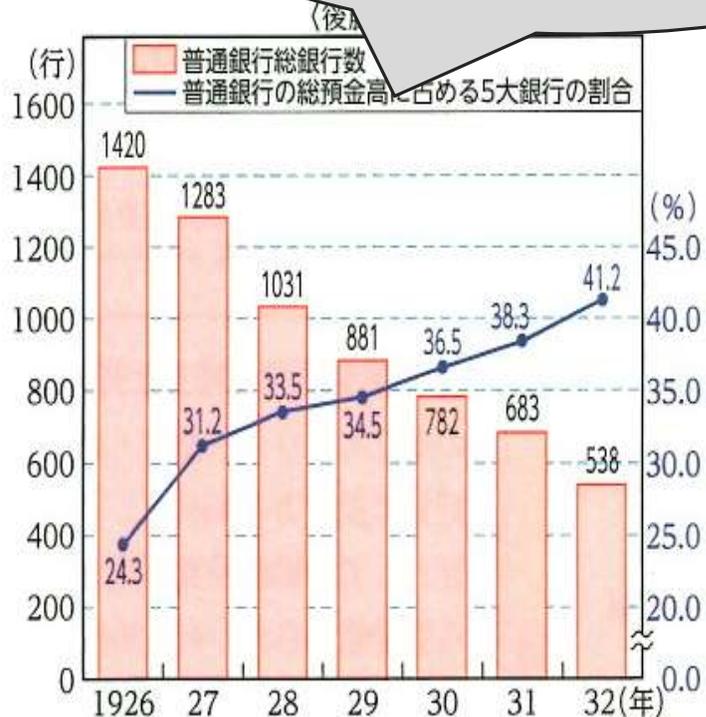
- ・ 預金を凍結されたり、払戻されなかった人々の犠牲
- ・ **不良債権の一掃**
- ・ **銀行統廃合・体質改善** (←「銀行法」1927)
 - 中小企業への供給力低下
- ・ **三大財閥の巨大化 (コンツェルン化)**
 - 預貯金の集中 (金余り) ・ 多くの企業を傘下に
 - **金解禁の条件整備の意味も**
- ・ **田中義一内閣の成立** (← 若槻内閣の退陣)
 - 対中「積極」政策 (山東出兵・張作霖爆殺)
 - = 中国との対立激化・日貨排斥運動高揚
 - 治安維持法改悪・思想弾圧の強化
 - **「暗い時代」への道を開く**

地方・中小銀行は減少
預金は財閥系大銀行と
郵便貯金に

恐慌の結果

三大財閥の産業
支配が強まる

財閥の拡大



⑦ 銀行統合と5大銀行の寡占化

4大財閥	8大財閥
三井 (三井合名会社) 1909年	あきの 浅野
三菱 (三菱合資会社) 1917年	かわさき 川崎
住友 (住友合資会社) 1921年	ふるかわ 古河
安田 (安田保善社) 1912年	おおくら 大倉
第一	< >は 持株会社
5大銀行	

1930年	3大財閥	8大財閥	その他
鉱業	63.3%	69.4	30.6
鉄鋼	54.2%	67.7	32.3
金属・機械	37.6%	58.0	42.0
紡績	24.9%	75.1	
電力・電灯	2.3%	5.5	94.5
運輸・通信	63.8%	66.4	33.6
商事・貿易	74.2%	82.3	17.7
銀行	29.6%	53.4	46.6

(柴垣和夫『三井・三菱の百年』)

電力・電灯、紡績・金属機械などはそれほどでもない

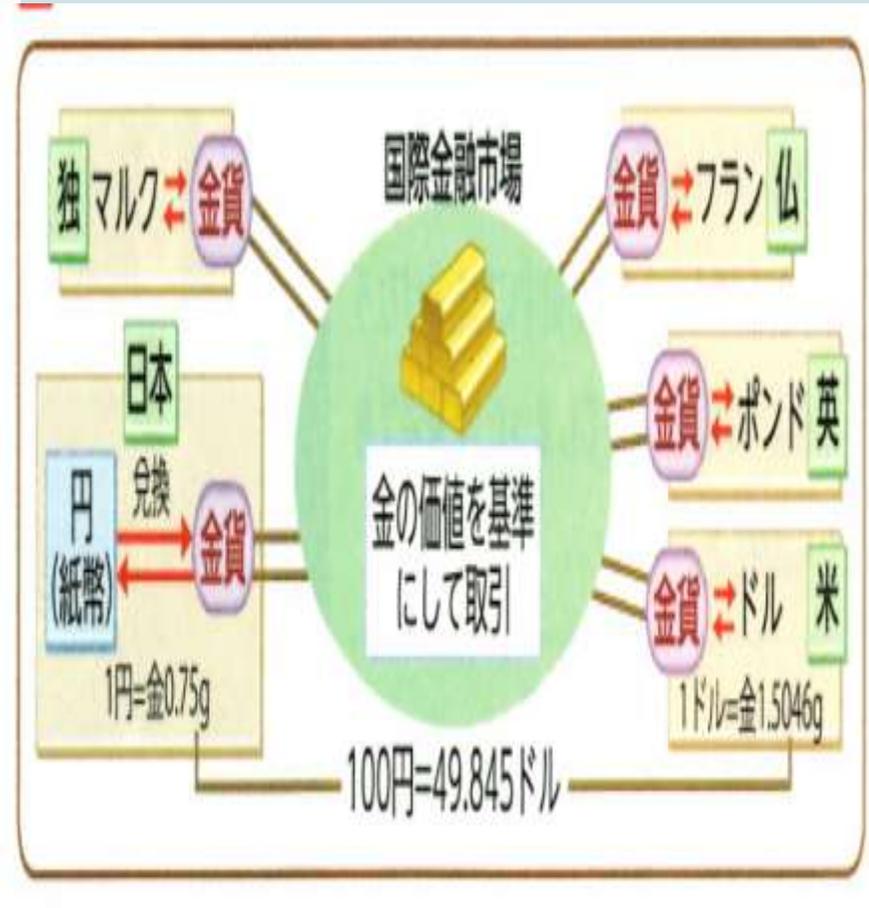
浜口雄幸内閣の成立 (1929、昭和4年)



- (1)政治の公明 (2)国民精神作興 (3)綱紀肅正
→政党内閣の基本精神を述べたにとどまる
- (4)対支外交刷新
→田中義一内閣の対中「積極」政策の否定
幣原外交復活
- (5)軍縮促進→ロンドン海軍軍縮条約の締結
- (6)財政の整理緊縮
- (7)非募債と減債→財政緊縮・産業合理化
- (8)金解禁断行
- (9)社会政策確立→労働組合法案・小作法案など
- (10)教育の更新→義務教育費増額

昭和恐慌1

金解禁とはなにか(1)



金解禁＝「金本位制復帰」

1, 通貨と金の兌換(＝紙幣と金正貨の引き換え)を自由にする。

100円分紙幣は100円金貨(金75g)と交換できる。

→手持ちの金を大幅に上回る紙幣は発行できない!

＝通貨発行量は金の保有量によって増減する。

2, 国際間の金の移動を自由にする

→貿易赤字になると金が流出する



国際収支によって通貨発行量が変動する

昭和恐慌1

金解禁とは何か(2)

日本では1897(M30)年以降、「金本位」制度を導入
金2分(0.75g)が1円・米国は金1.5gが1ドル

→100円=金20分(75g)=50ドル という等式が成立

第一次大戦の1917年以来停止

→各国はしだいに金本位制に復帰



①十円金貨

金の含有量 15 g)

メリット	デメリット
<p><small>がいこくかわせそうば</small></p> <ul style="list-style-type: none">・外国為替相場が安定する (100円=約50ドル) →金本位制国(おもに欧米諸国)との貿易振興がはかれる・国内の物価が安定する →金の保有高によって通貨量が決定される・本国通貨の信用が高まる →金本位制国からの外債募集がしやすい	<ul style="list-style-type: none">・銀行は、求めに応じて通貨から金に交換しなければならない →公式の為替相場より実際の為替相場が安い場合、安く手に入れた通貨で公式の相場での金との交換を要求され、自国の金が海外に流出する・柔軟な経済政策を実施できない →金の保有高によって通貨量が決められているため、通貨量を調節する経済政策ができない

金解禁をめぐる年表と国際比較

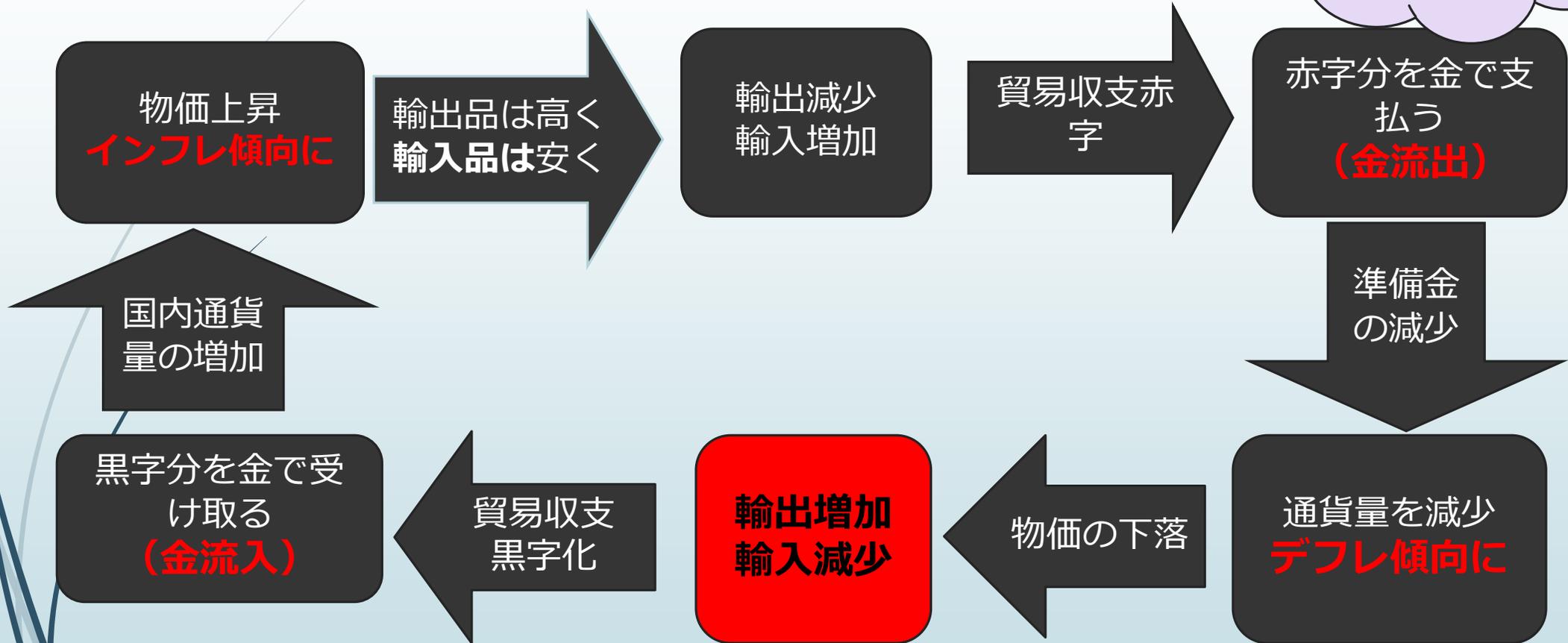
1895	. 4	下関条約(多額の賠償金獲得)	貨幣法
1897	.10	貨幣法施行(金本位制確立)	
1914	. 7	第一次世界大戦勃発	
1917	. 9	金輸出禁止	
1927	. 3	金融恐慌起こる	
1930	. 1	金輸出解禁(金解禁)	
(昭5)		昭和恐慌起こる	
1931	.12-13	金輸出再禁止	
	.12-17	金貨兌換停止令 (事実上管理通貨制度に移行)	
1988 (昭63)	. 4-1	新貨幣法の施行 (正式に金本位制廃止となる)	

	1870年	1914~18 第一次世界大戦	1929 世界恐慌
日本	1871 ----- 1897	1917.9	30.1 31.12
イギリス	1816	1919.4	25.4 31.9
アメリカ	1873	1917.9	19.6 33.4
ドイツ	1871	1915.11	24.10 31.7
フランス	1876	1915.7	28.6 36.9
イタリア	1878	1914.8	27.12 34.5

昭和恐慌1

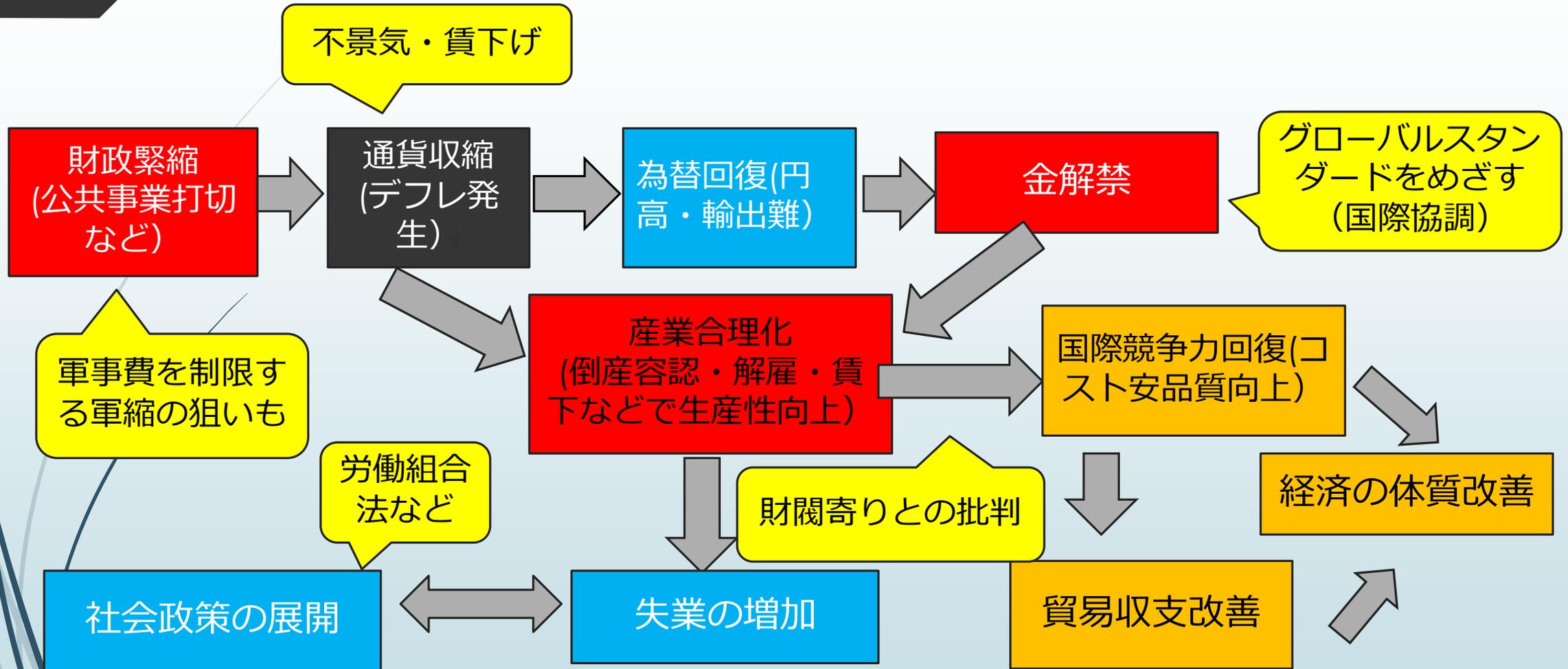
金本位制の自動調整作用

ほんとにそんな
理屈通りにいく
の？

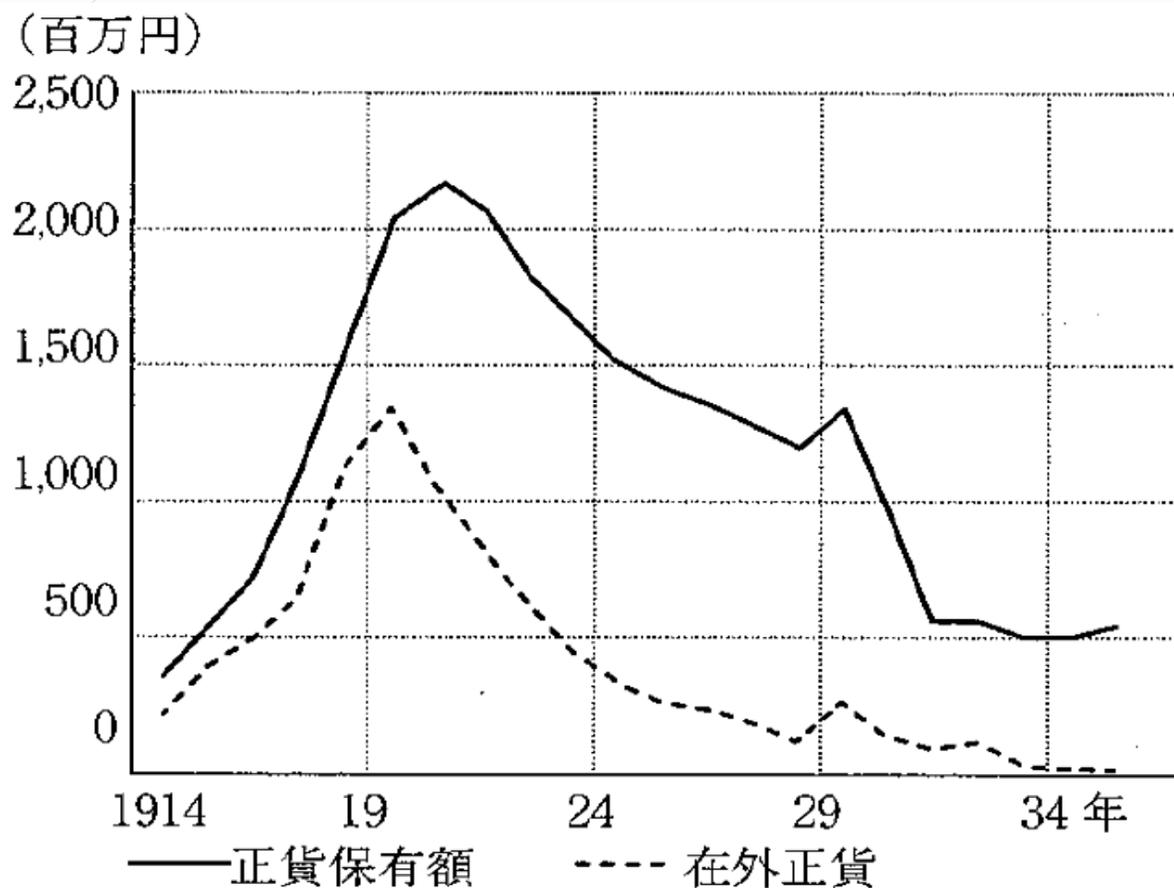


金解禁政策の狙い

武田晴人の模式図を下に作成



金解禁の背景：対外正貨の払底



出所) 三和良一・原朗編, 前掲『近現代日本経済史要覧
補訂版』114頁より作成。

第一次大戦中の貿易黒字分を対外正貨として保管（「不胎化政策」）。それを隠し財源として、20年代の貿易赤字を補填してきたが・・・。

実は日露戦争の時の債務の借り換え時期が1930年に迫ってきていた。

昭和恐慌は 金解禁以前 から始まる

緊縮到来！

資本家は腹を緊縮（しめ）財布の口を緊縮（しめ）、事業の手を緊縮（しめ）るが、

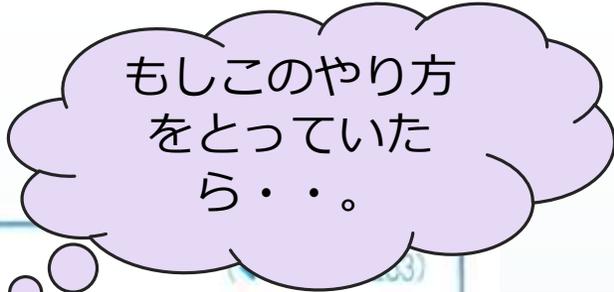
労働者は首を緊縮（しめ）るばかりだから早く救済（たすけ）ないと命にかかはる・・・。

旧平価解禁は、緊縮
財政を伴っていた



北沢楽天画「緊縮政策」1930,7,6

旧平価解禁論と新平価解禁論



旧平価解禁論

貨幣法で定められた通り

100円 = 金75g ≒ \$ 50 (\$ 49.945) で交換する

→円安の実勢価格 (100円 = \$ 40~45) を円高に誘導

→デフレによる物価下落→不景気を甘受

新平価解禁論 (石橋湛山・高橋亀吉ら)

実勢の為替価格での解禁を主張

→日本の実質的な国内購買力と同等であり、

産業への被害なし

→「貨幣法」の改正の手続き

「産業合理化はすすまない」

新平価解禁論

(平価…外国通貨との交換比)

旧平価…金輸出禁止前の法定の円為替相場 **円高**

[対米金平価 100円 = 49.85ドル] (1ドル = 2円)

新平価…1928(昭和3)年の平均為替相場 **円安**

[対米金平価 100円 = 46.46ドル] (1ドル = 2円15銭)

旧平価で解禁すると円切上げとなる。

↓ (100円で46.46ドル分しか買えなかったものが49.85ドル分買える。逆に46.46ドルで100円分買えたものが49.85ドル出さないと買えなくなる。)

輸出が減少し、輸入が増加

[結果] 金の流出、通貨量縮小、

物価が下落してデフレ状態に

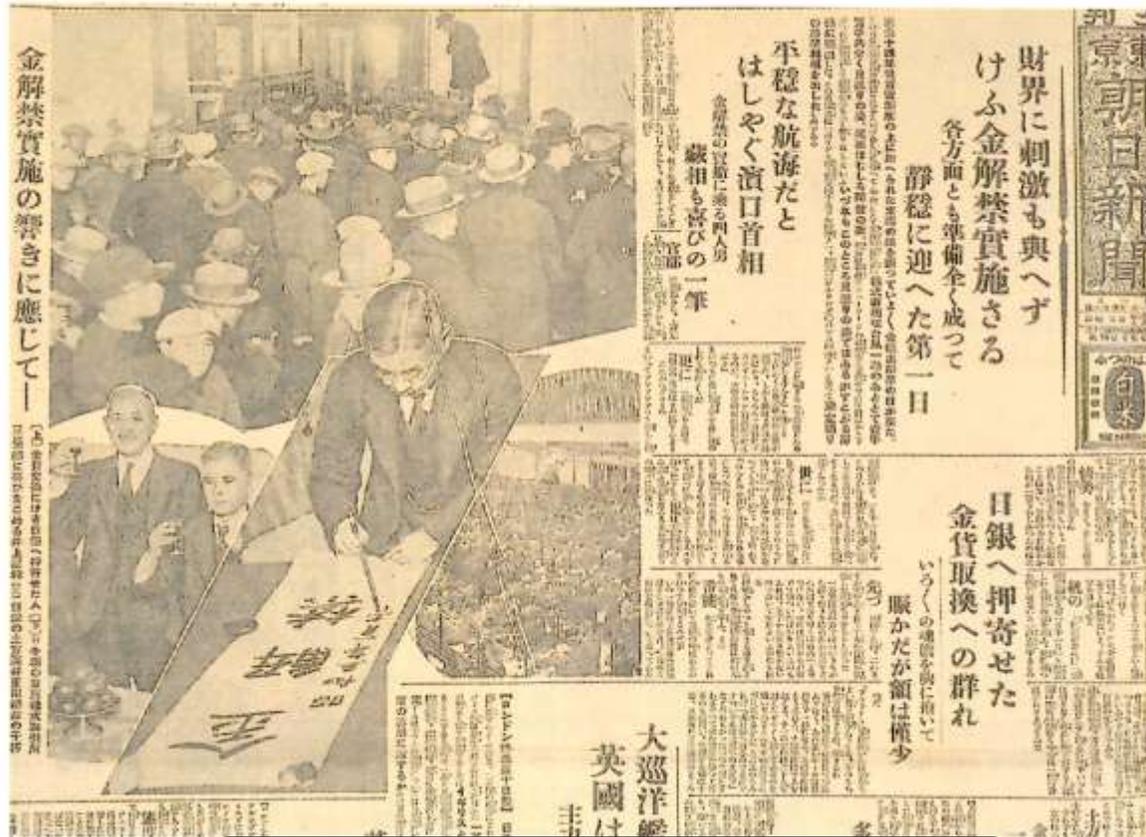
この中で輸出を増加させようとするれば、さらに物価引下げ、人員整理、賃金カットなどが生ずる

ゆえに新平価で解禁すべきである(新平価解禁論)

注)井上準之助蔵相は旧平価解禁論、石橋湛山・高橋亀吉は新平価解禁論。

金解禁の実行

1930(昭和5)年1月11日



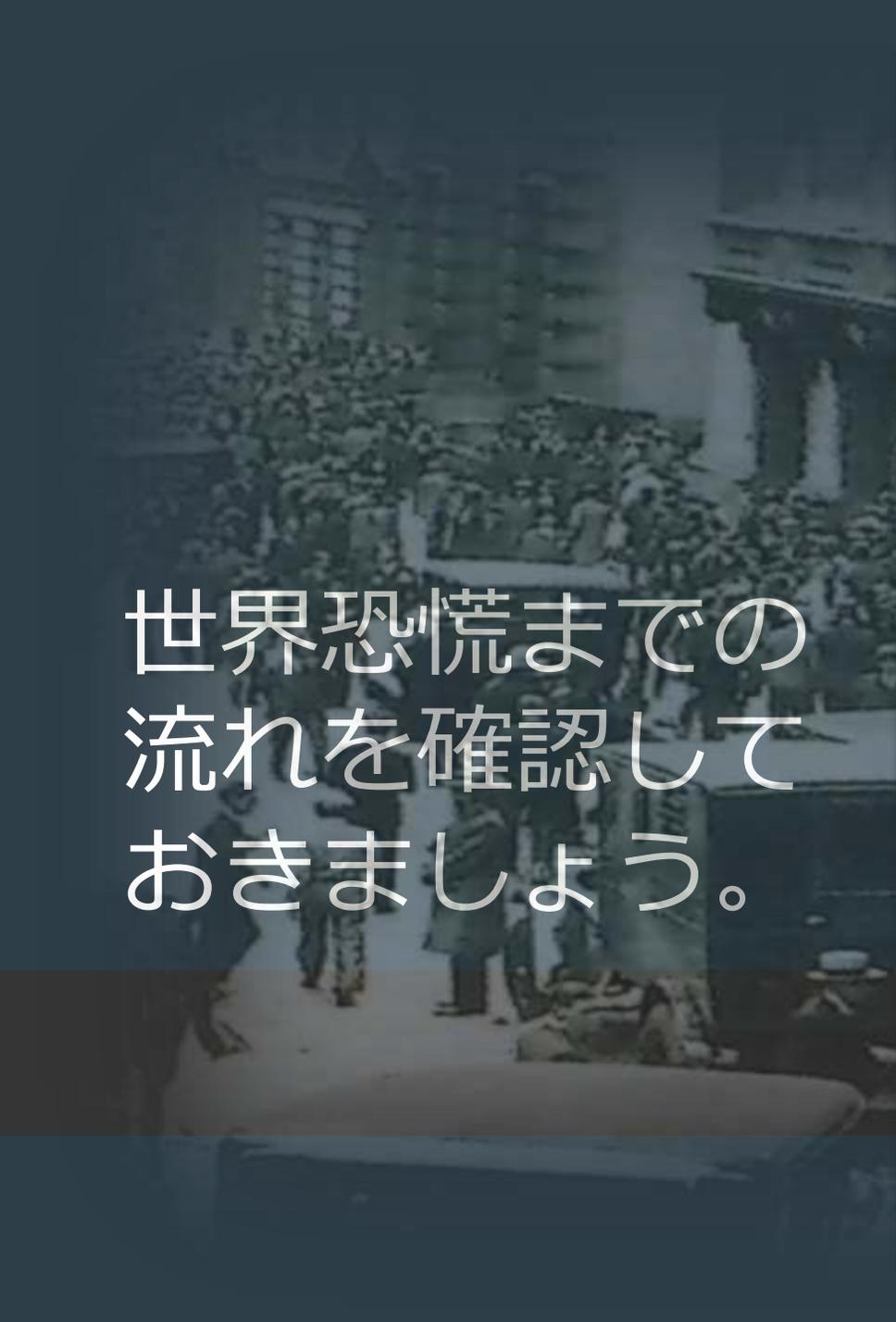
平穩な航海だとはしゃぐ濱口首相

馬鹿いへ。ボーナス
やサラリーがどうな
るかしたもんじゃ
ない。

暮らしよ
くなるそ
うですよ



57 金解禁への期待 「暮らしよくなるそうですね」「馬鹿いへ、ボーナスやサラリーがどうなるか知られたもんぢやない」。2人の会話に濱口内閣の経済政策に対する人々の期待と不安とが交錯する。『大阪毎日新聞』1929年11月19日より。



世界恐慌までの
流れを確認して
おきましょう。

7 暗黒の木曜日〔1929年10月24日〕

ゴールドマン・サックスにとり、株式一般と同様、最後の審判の日は1929年10月24日の木曜日であった。その前、何日かにわたり、市場は弱くなっていたが、その日の朝は、私自身前にも書いたとおり、限度を知らぬ説明を超えた大規模な売りものが殺到した。それは、取引所の床に怒濤どとうのような力で打撃を与えた。株式市場の機構全体が、このパニックには対処のしようがなかったのである。相場表示のチッカーは、市場の動きに追いつけなかったし、国中の人たちは、いったい何が起こっていたかわからず、ただ、これで破滅だと知ったか、でなければ、まもなく破滅すると予想したかである。そこで、彼らは、売りもしたし、売られもした。取引所の中は、耳をつんざくほどの騒ぎだったし、その外のウォール・ストリートには、群衆が集まっていた。多分、資本主義は崩壊しつつある、それはおもしろいことだと思われたのであろう。

(J.K.ガルブレイス『不確実性の時代』TBSブリタニカ)

世界恐慌へ

第一次大戦後の世界

▶ アメリカの繁栄（「金ぴか」の時代）

工業製品・農産物の輸出

大量「戦時債権」

ヨーロッパの経済不振

ドイツ賠償金問題→ハイパーインフレ発生

フランスなど国土荒廃→復興資金の必要性

イギリス→アジアなど市場縮小

大量の「債務」

軍縮と国際協調の時代

日米主導の軍備拡張→負担増大からの脱却



世界恐慌 発生

1929(昭和4)
年秋

銘柄株の大暴落

企業株	1929年9月3日 高値	1929年11月13日 安値
アメリカ缶詰	181 7/8	86
アメリカ電信電話	304	197 1/4
アナコンダ銅	131 1/2	70
ゼネラル=エレクトリック	396 1/4	168 1/8
ゼネラル=モーターズ	72 3/4	36
モンゴメリー=ウォード	137 7/8	49 1/4
ニューヨーク=セントラル ラジオ	256 3/8	160
ユニオン=カーバイド&カーボン	101	28
ユニオン=カーバイド&カーボン	137 7/8	59
U=S=スチール	261 3/4	150
ウェスティングハウスE&M	289 7/8	102 5/8
ウールワース	100 3/8	52 1/4
エレクトリック=ボンド&シェア	186 3/4	50 1/4

フレデリックLアレン『オンリー=イエスタデイ』より作成

10月24日 NY株式史上最大の暴落

1289万株の売買 (「暗黒の木曜日」)

例：GE株 \$ 400→\$ 315 (朝) →\$ 283 (夕)

10月29日 1日で80億ドルから90億ドルの損害

(NYタイムス)

1600万株の売買 (平常は400万~500万株)

11月13日 主力株・花形株が底なしの再底値に

AT&T \$ 304→\$ 197 GE \$ 396→\$ 168 GM \$ 72→\$ 36

USスチール \$ 261→150 アメリカ缶詰 \$ 181→86

(9/3→11/13)

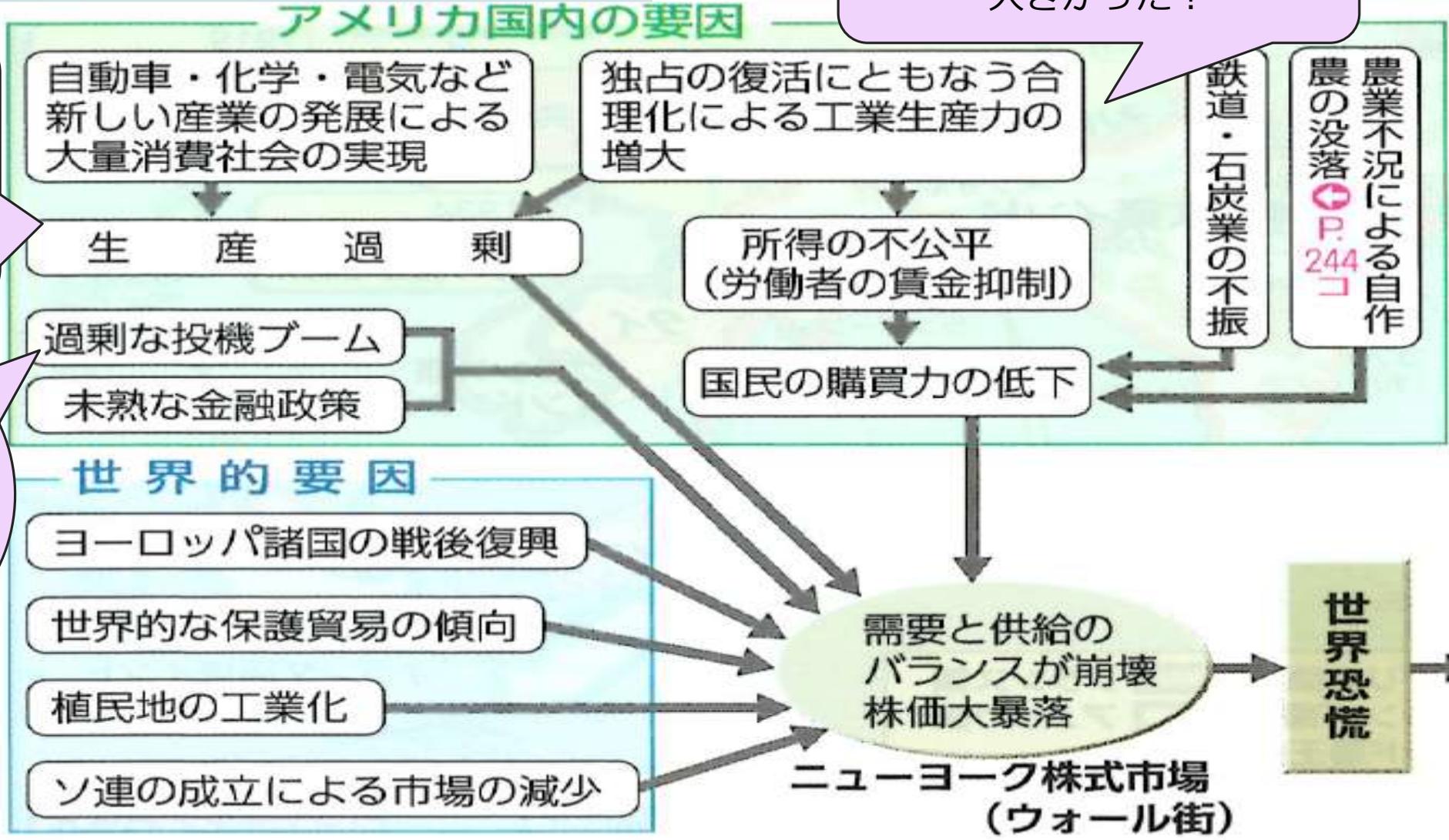
証券取引所に詰めかけた人々

世界恐慌の原因

中間層と農民・移民・有色人種との所得格差は非常に大きかった！

大量生産で製造される割に価格は下がらなかった

ヨーロッパの資金も含め、多くが投機に回された。



恐慌のアメリカへの影響

内訳	1929	1930	1931	1932	1933
GNP(億ドル)	1,040	910	760	590	560
雇用(百万人)	47.6	45.5	42.4	38.9	38.8
失業率 (%)	3.2	8.7	15.9	23.6	24.9

GNPは半減

四人に一人が失業

設備投資は不調

鉄鋼生産量も1/4に



(当時着色された写真)

失業者たちのバラック村はフーバー村と呼ばれた

一杯のスープを求める背広の紳士たち

46

71



大恐慌下の世界比較

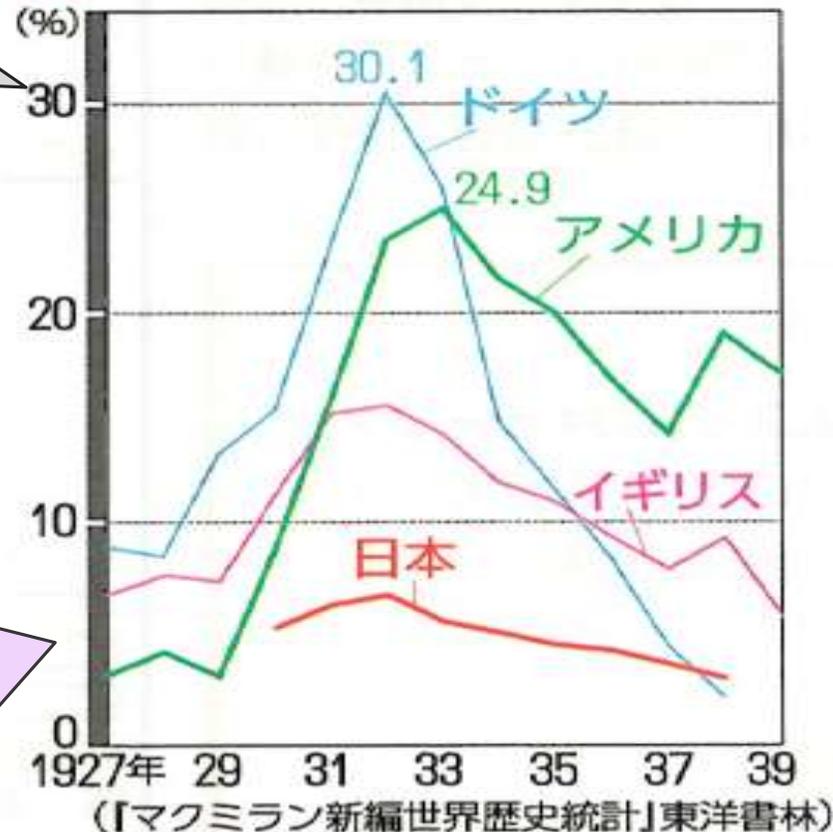
(失業率・工業生産高)

ドイツ・アメリカの失業者率の高さに注目

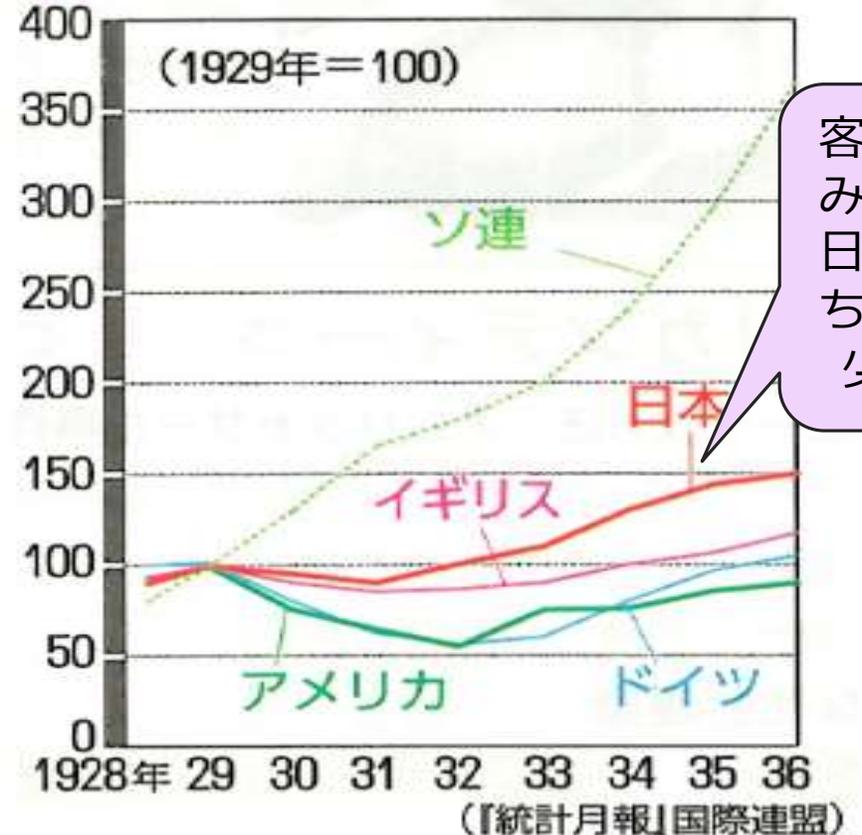
アメリカには失業保険の制度などが無いので特に深刻。

日本の失業率の低さは農村などの膨大な潜在的失業の中に隠れているとの指摘も。

A 各国の失業率



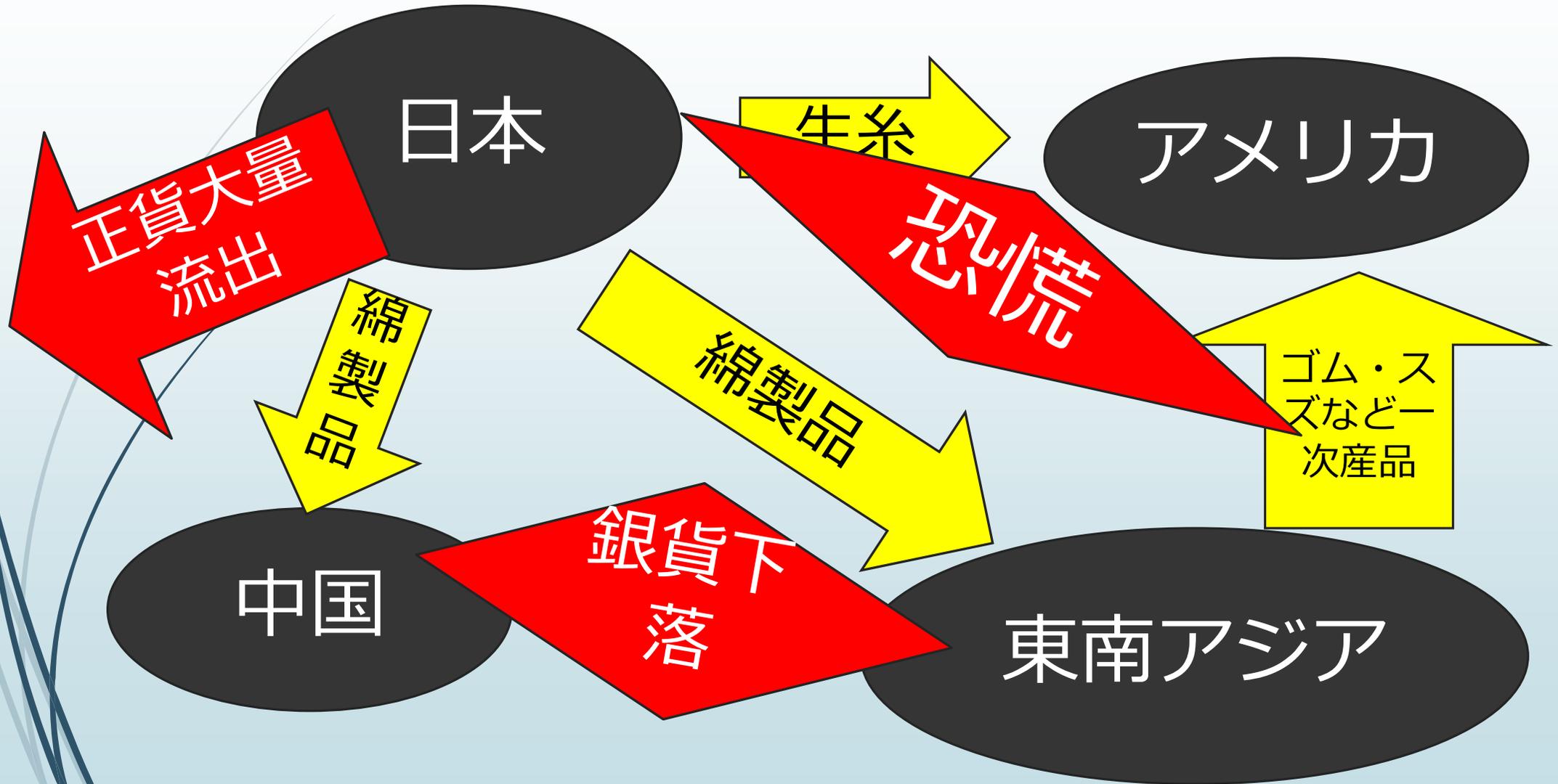
B 恐慌中の工業生産



客観的にみれば、日本のおちこみは少ない

昭和恐慌2

世界恐慌、日本へ



昭和恐慌へ

背景	① 1929(昭和4)年の世界恐慌 ② 1930(昭和5)年の金輸出解禁
状況	① 輸出減少 ② 輸入超過 ③ 工業恐慌(企業の操業短縮・倒産)→大量の失業者が発生 ④ 農業恐慌 → ・ 農産物価格の暴落(アメリカへの生糸の輸出が減少し、繭価が大暴落)→所得減少 ・ 1930年の豊作貧乏(豊作による米価下落による貧乏) ・ 1931・34年の大凶作
対策	はまぐち おさち 〈浜口雄幸内閣〉 蔵相 井上準之助  p.267 ① 低金利政策 ② 重要産業統制法(1931年, カルテルの助成と生産・価格の制限)→産業の合理化

貧民調査をする警察(大阪市)



くず米で腹を満たす東北の農家(1934年)

昭和恐慌期の経済指標

恐慌の底は1931
～32年。
以後、急回復
ただし、生糸を除いて。

		1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935
卸売物価		100	83.2	70.9	78.1	86.8	85.4	85.4
	米価	100	87.4	63.5	72.8	73.7	89.8	102.3
	生糸価格	100	65.8	45.1	53.2	57.8	40.7	54.4
	綿糸価格	100	65.5	56.1	63.7	88.5	93.5	91.0
生産量	生糸	100	100.6	103.5	98.6	99.6	106.8	103.3
	綿糸	100	90.4	91.9	100.6	111.0	124.3	127.5
	粗鋼	100	99.8	82.1	104.6	139.4	167.6	205.1
民間工場労働者数		100	90.0	81.7	82.0	89.9	100.2	109.7
民間工場実収賃金		100	95.0	87.3	84.8	85.9	87.8	87.7
株価		100	61.7	62.7	78.6	113.1	138.0	126.3

日本の恐慌(1)

「まず巨額の金が出し始めた」

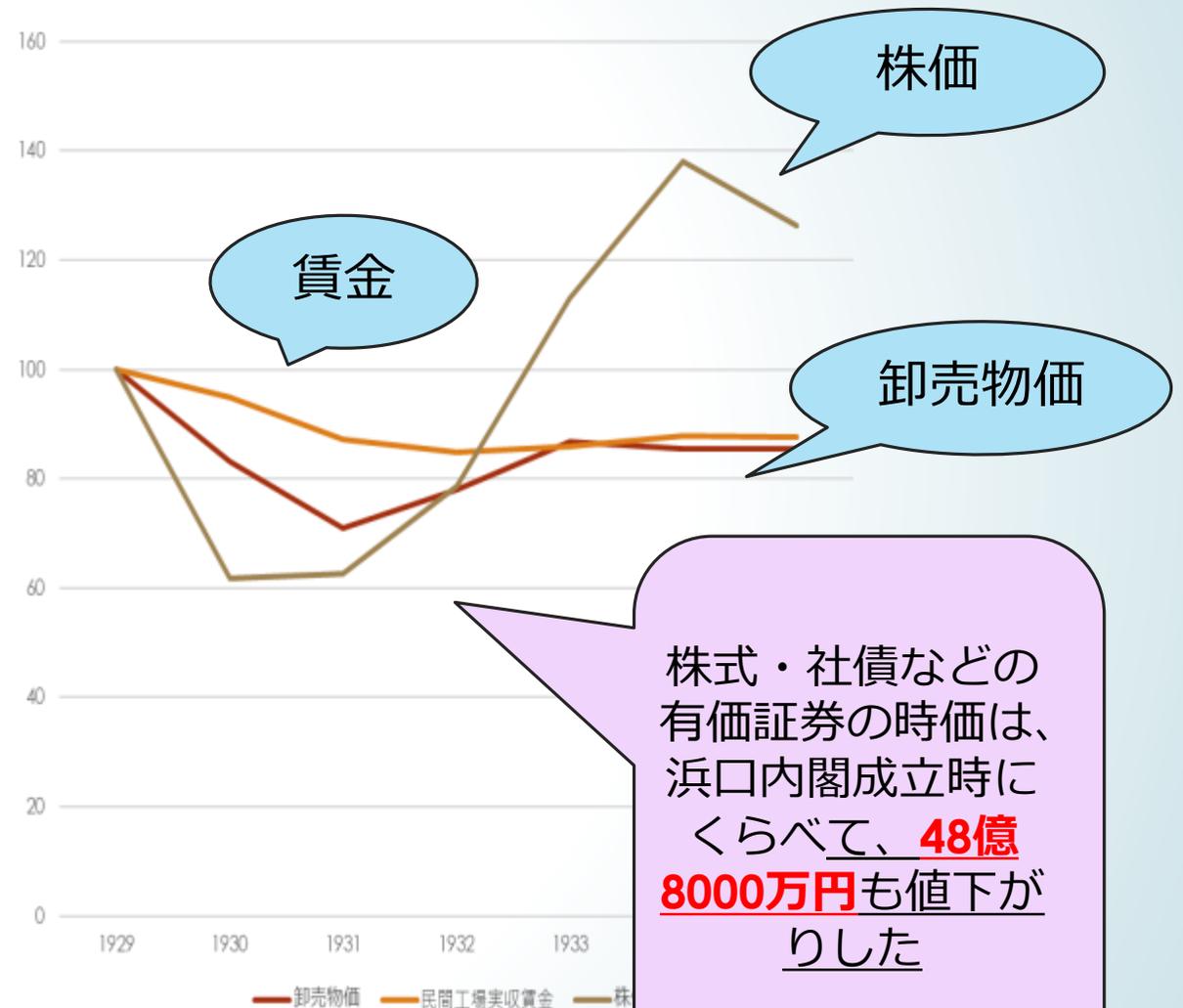
→「解禁後わずか2ヶ月で1億5000万円の正貨流出であった」1930年末には合計2億8800万円に

「株価・物価の下落もすさまじい」

「有力株が軒並み暴落した」

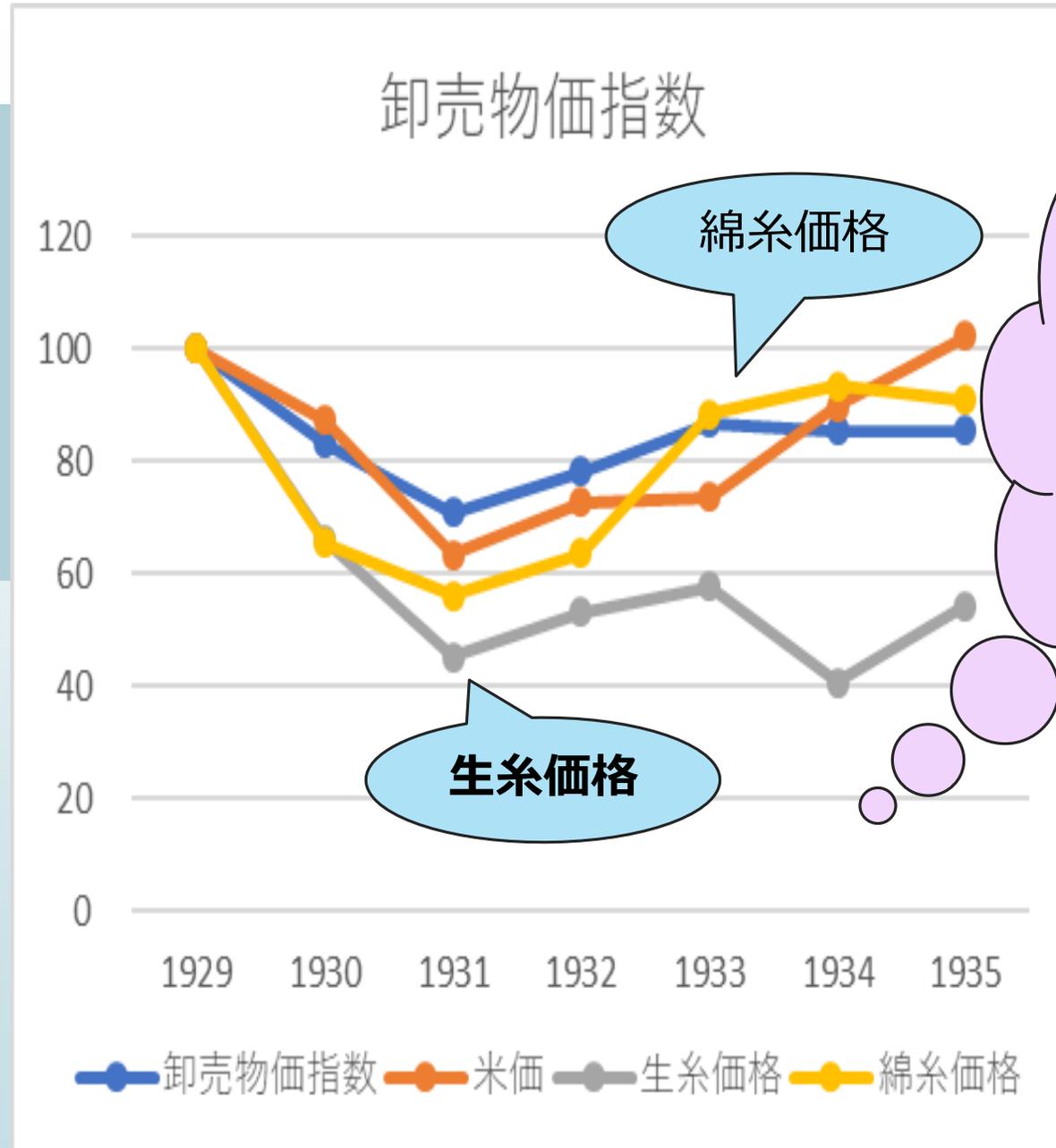
「賃金が下がり、解雇が始まる」

株価・物価（卸売）・賃金の変化



昭和恐慌2

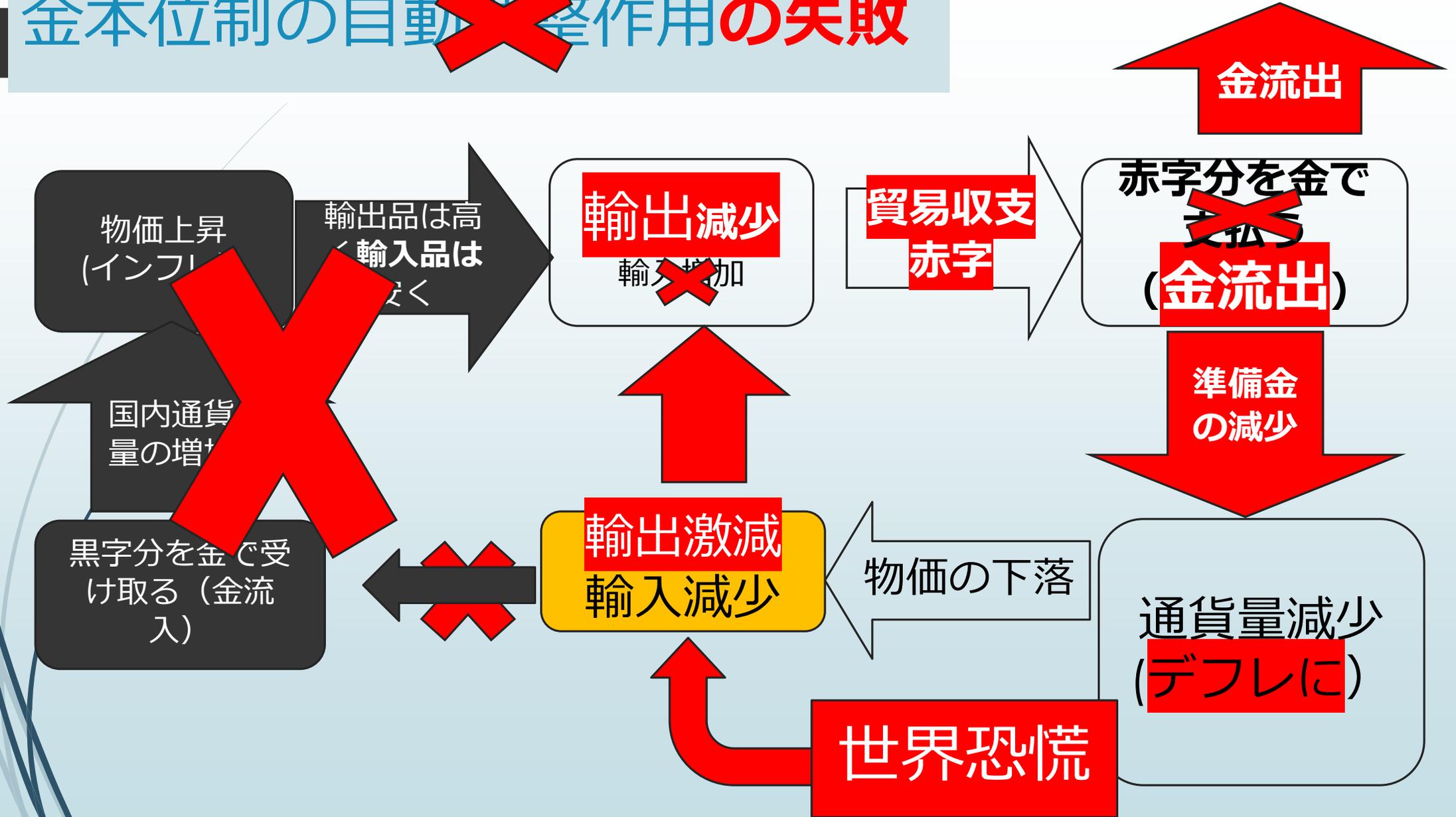
物価下落 とくに生糸 が！



内閣成立直前と30年12月を比較すると、卸売物価27%強、小売物価23%強の下落

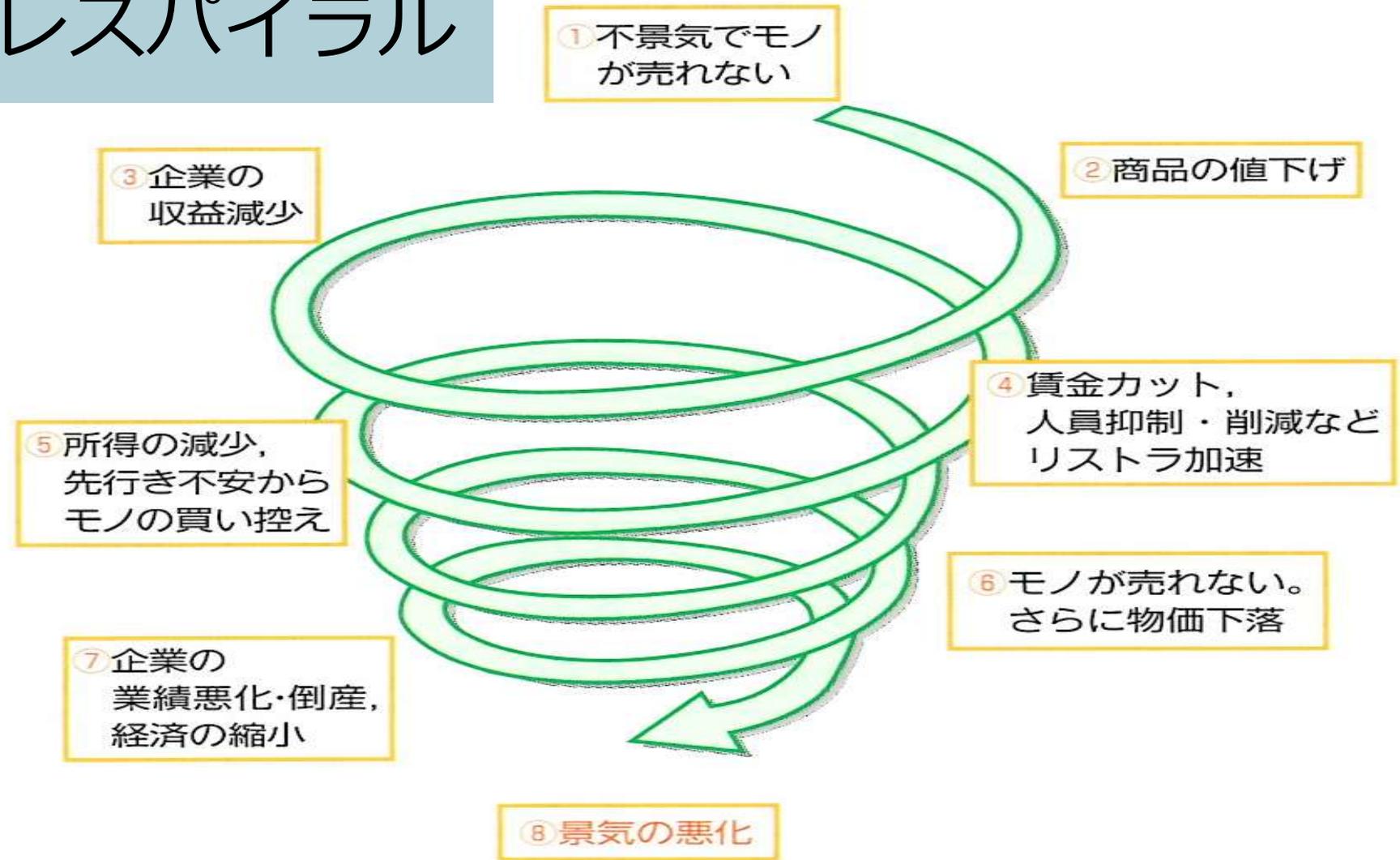
「なかでも生糸の下落は息をのむほど」
66.1%の落ち込み

金本位制の自動調整作用の失敗



昭和恐慌2

デフレスパイラル





古賀政男

デビュー曲「影を慕いて」は自殺を決意した古賀が、その場所と決めた宮城県で見た夕日からインスピレーションを得た

エログロナンセンス
エロチック（煽情的）で、グロテスク（怪奇的）で、ナンセンスな（ばかばかしい）言動をいう、昭和五年に使われはじめた流行語

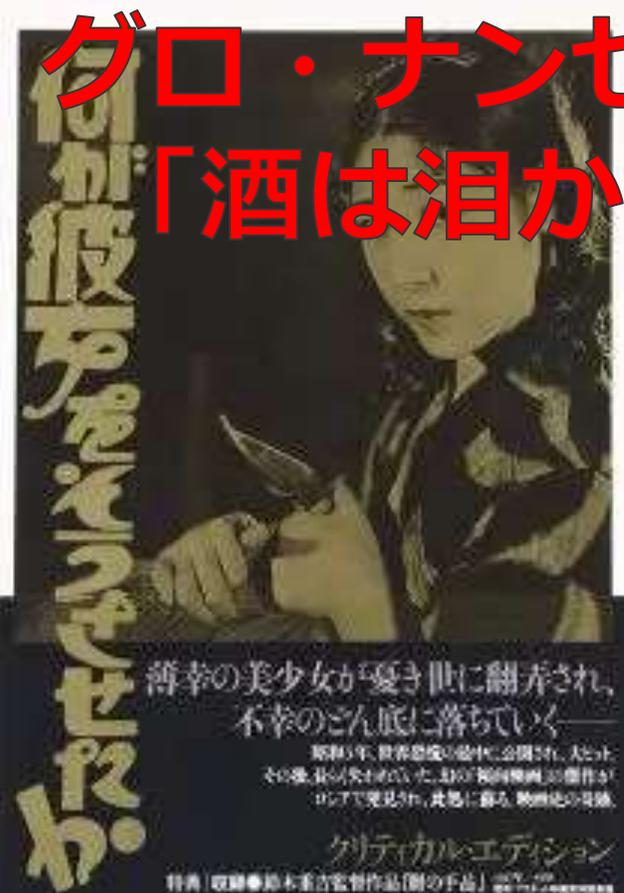
恐慌下の世相

～エロ・グロ・ナンセンス・「傾向映画」

「酒は涙かため息か」

傾向映画

社会主義の影響を受けた映画。薄幸の美少女は憂き世に翻弄され、不幸のどん底に。そして罪を犯す。映画は問う。「何が彼女をそうさせたのか？」



昭和恐慌2

恐慌への対策～カルテル締結

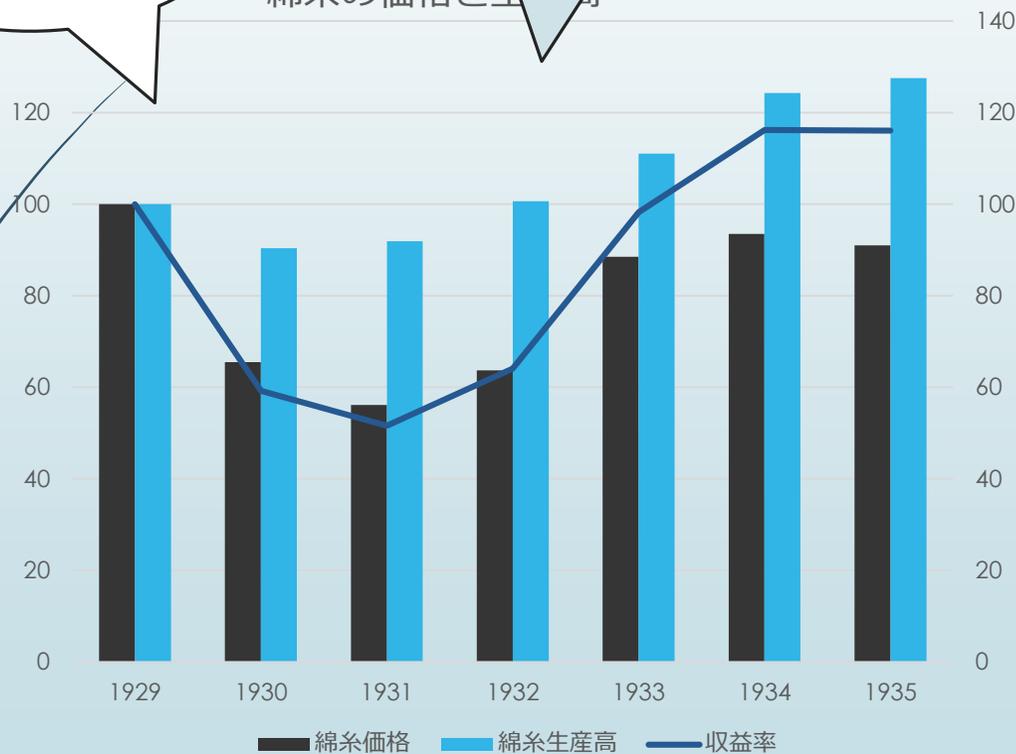
綿糸は価格暴落と共に、生産量もへらす

カルテルを結び、生産量と価格を調整する

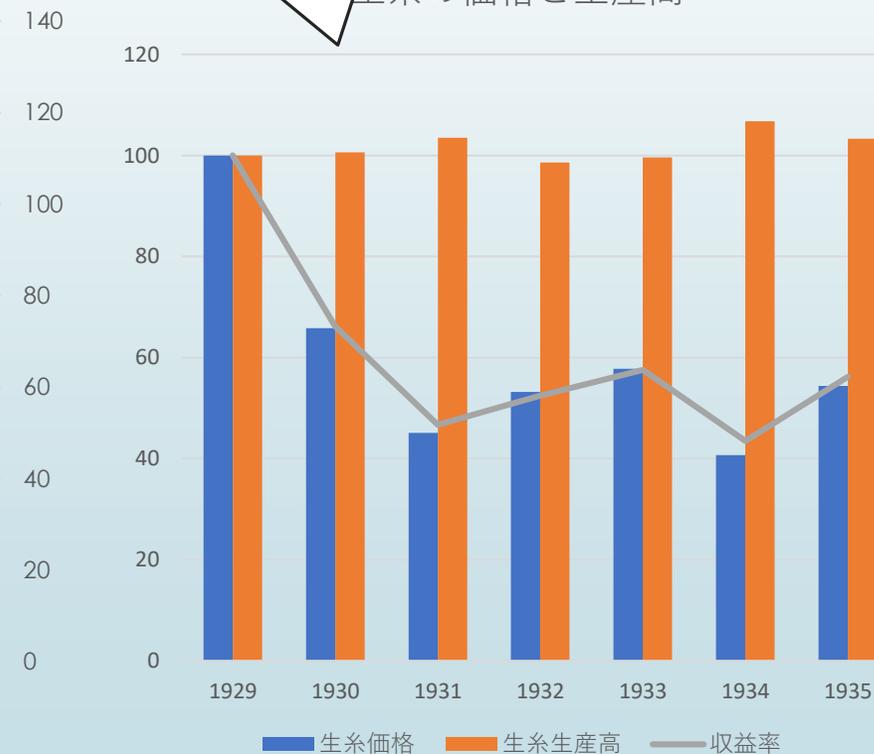
生糸は価格暴落にもかかわらず生産量を増やす

価格下落を生産増によって埋め合わせようとする

綿糸の価格と生産高



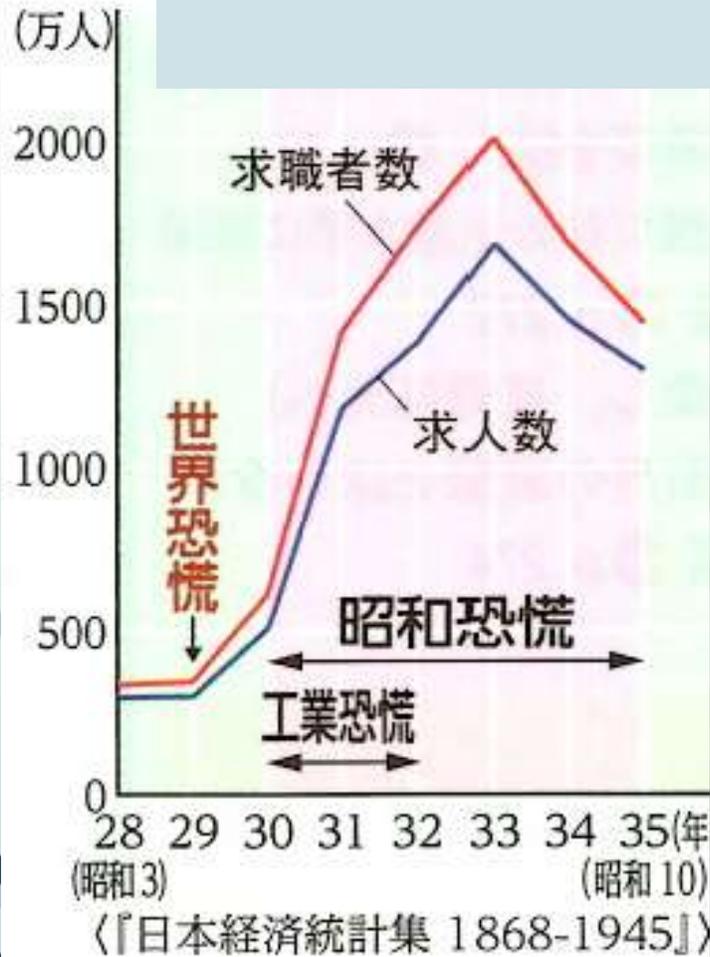
生糸の価格と生産高



政府は恐慌対策として業種毎のカルテルによる生産調整価格安定をすすめた。

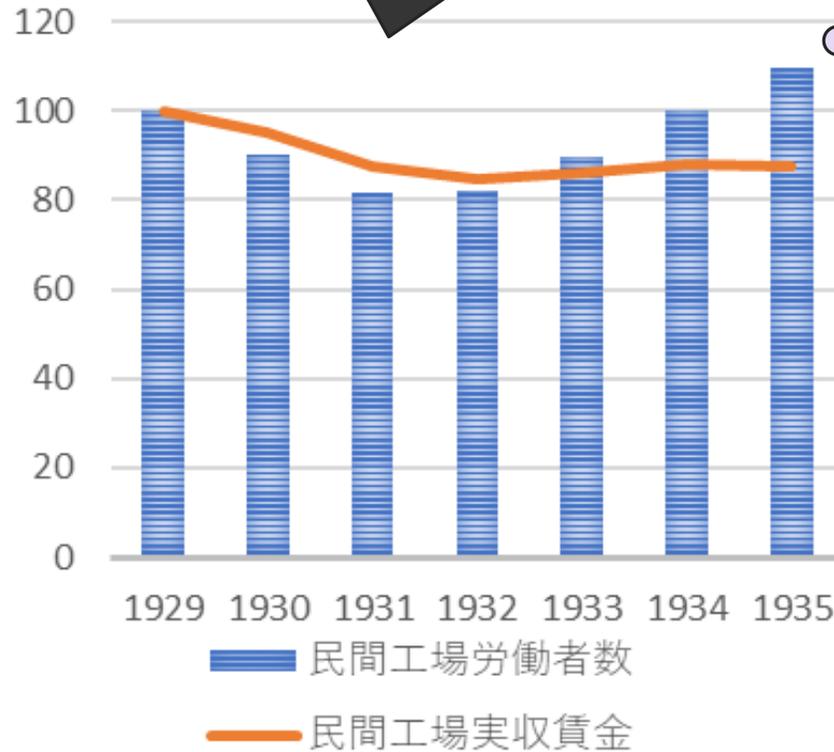
昭和恐慌2

失業者の発生



恐慌によって約20%の労働者が仕事を失い、求職者は2000万人を超えた。賃金も低下した。

とはいえ、今まで通り仕事を続けられたものが多い



◎恐慌の深刻さを報じる新聞 1930年1月27日。

校門を出る若人に
暗い影さす就職難
官廳も會社も皆人減らしに
また起る社會問題

用した、不足したので本年は
八十餘は採用せねばなるまい。職
来た、来る三月大層、これは前年
を要するものは約一割、これは前
するが、これに對して、
のの官廳、銀行、
ぞいて見ると、いづれ

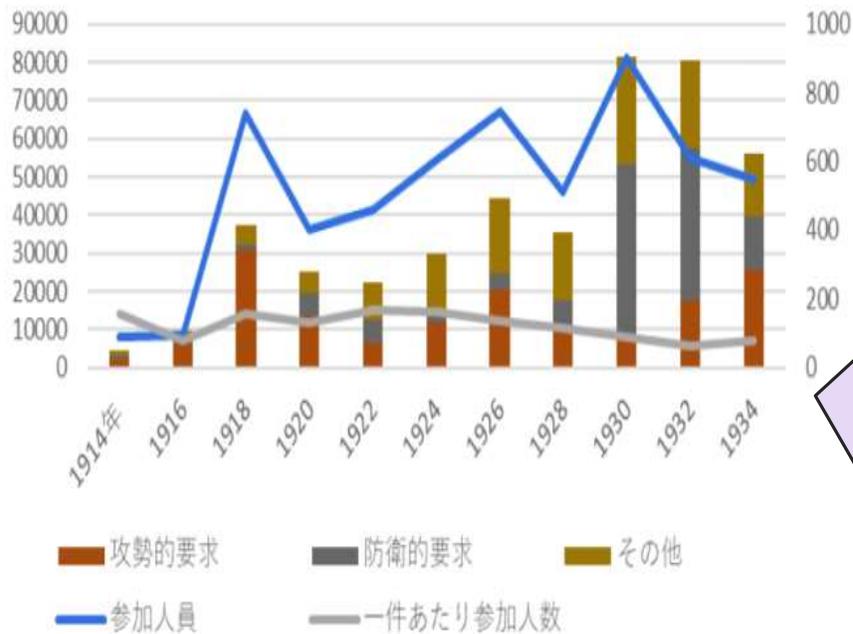
に一人も採用せぬといふ聲が
相対強、過剰人員は百餘人
によつて解雇したい。場であるが
本年は一萬トンの穀類、鉄又
平陸、平安、比叻、氷川の六代
船が完成し外債發行についで
そのために人員を減らすの聲
強もあり、官廳學校は相対強
出来るらしく、地方別卒業生に

はず、世間は難
これも中人が多く
重畳(相違)を持ぬ
戸籍上(ゆくこと
も一人で給本は前
難問へ入ると言
帝大の聲、

昭和恐慌2 労働争議の 活発化

当時のビラ

労働争議の参加人数・件数・要求



20年代と異なり、**解雇反対、賃金支払い要求**など防衛的な要求が増える。

急進化の傾向。

参加人員・件数も増える。
一件あたりの人数は減少している。

せ倒を閣内氣景不口決

全労働者の大同團結のみが最後の勝利だ

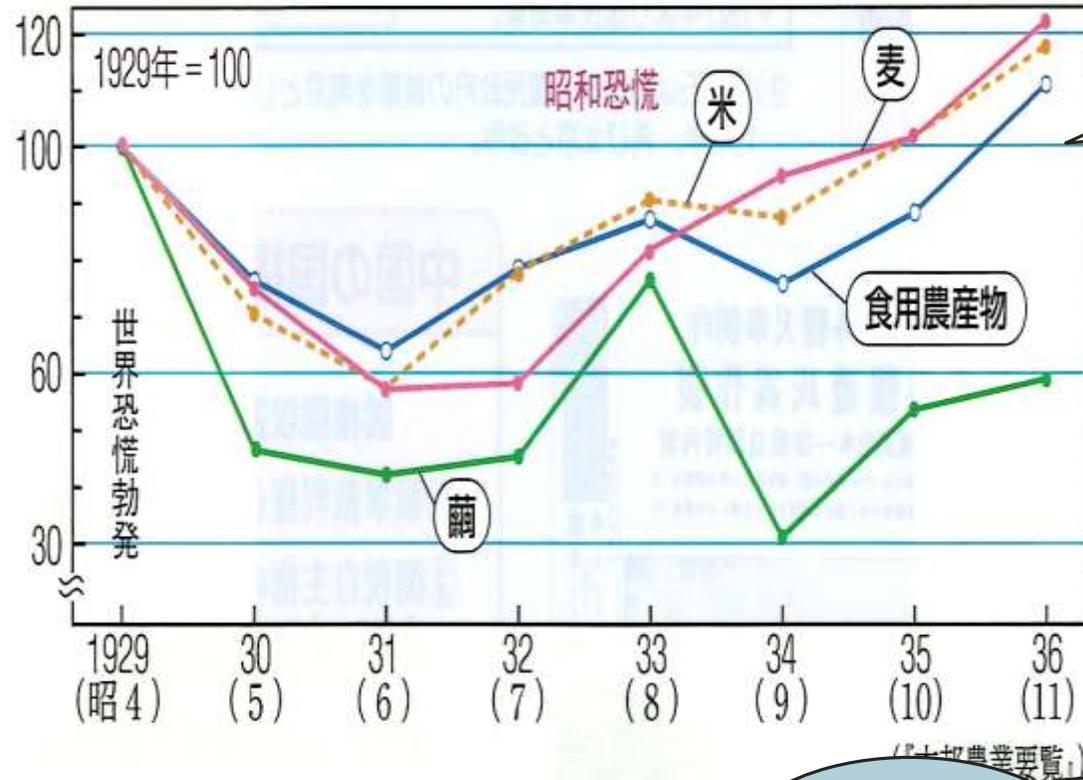
働かせろ!! 喰わせろ!!
 工場閉鎖絶体及対!! 解雇絶体及対!!
 賃金値下時間の延長絶体及対!!
 健康保険金資本家政府全額負擔!!
 政府は最低賃金を保証せよ!!
 失業者に無料食券を出せ!!
 政府は失業者の生活を保証せよ!!

全國を襲ふ失業の嵐に扱へよ
 結束して起て! 全労働大衆諸君!!

盟同争闘止防業失

夷久理上川 又三一目丁三邊原管市戸神

農作物の価格変動



基準線
はここ

農家経営への被害

1926~29の平均から1932~36
の平均の減少率を計算した！

減少率、つまり数
値はすべてマイナ
ス

昭和恐慌前後の農家経営指標の減少幅 (%)

	自作	自小作	小自作	小作
経営耕地面積	27.9	23.0	15.5	26.4
農業所得	35.2	38.7	24.4	44.2
農外所得	51.2	49.2	38.2	42.3
農家所得	39.1	40.5	27.6	43.7
家計費	40.4	41.2	28.3	38.4
農家経済全剩	27.2	22.0	22.7	67.8

武田『日本経済史』P267の表の各項目の1926~29平均から1932~36平均への減少を前者からの%で示した。

被害は全階層に
及ぶが、純自作
と純小作が深刻

農外所得
が深刻

純小作の
経済余剰
は1/3
に！

昭和恐慌2

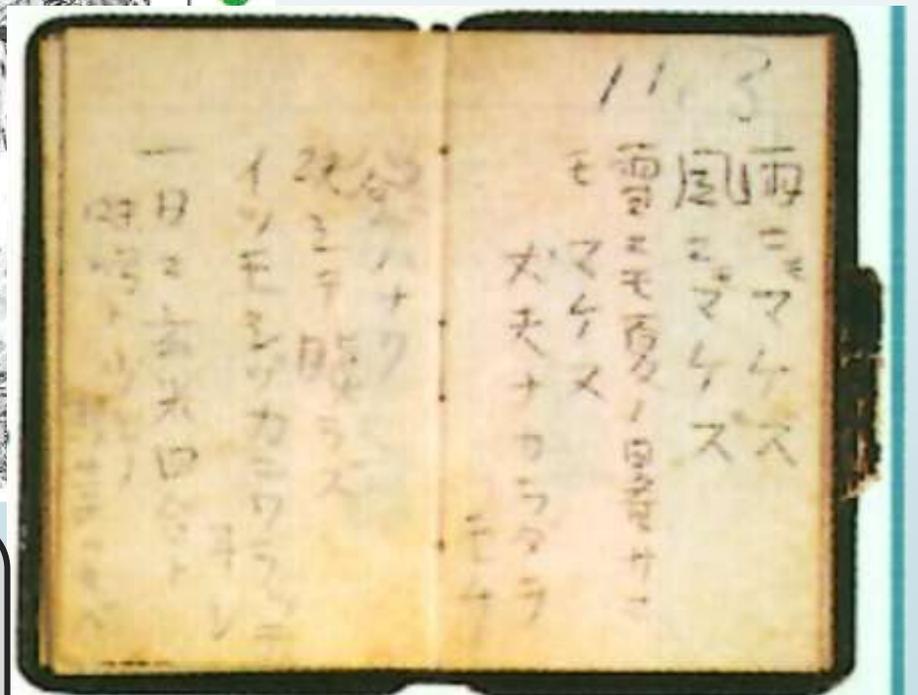
東北の飢饉

1930(昭5)	豊作飢饉
1931(ノ6)	東北・北海道 で大凶作
1932(ノ7)	凶作
1933(ノ8)	豊作飢饉
1934(ノ9)	東北大凶作

宮沢賢治の「雨にも
負けず」の詩はこの
時期に書かれた



飢えに苦しむ
子どもたち



優秀な兵士を輩出する東北地方の飢饉
は、陸軍将校たちの危機感を醸成した。

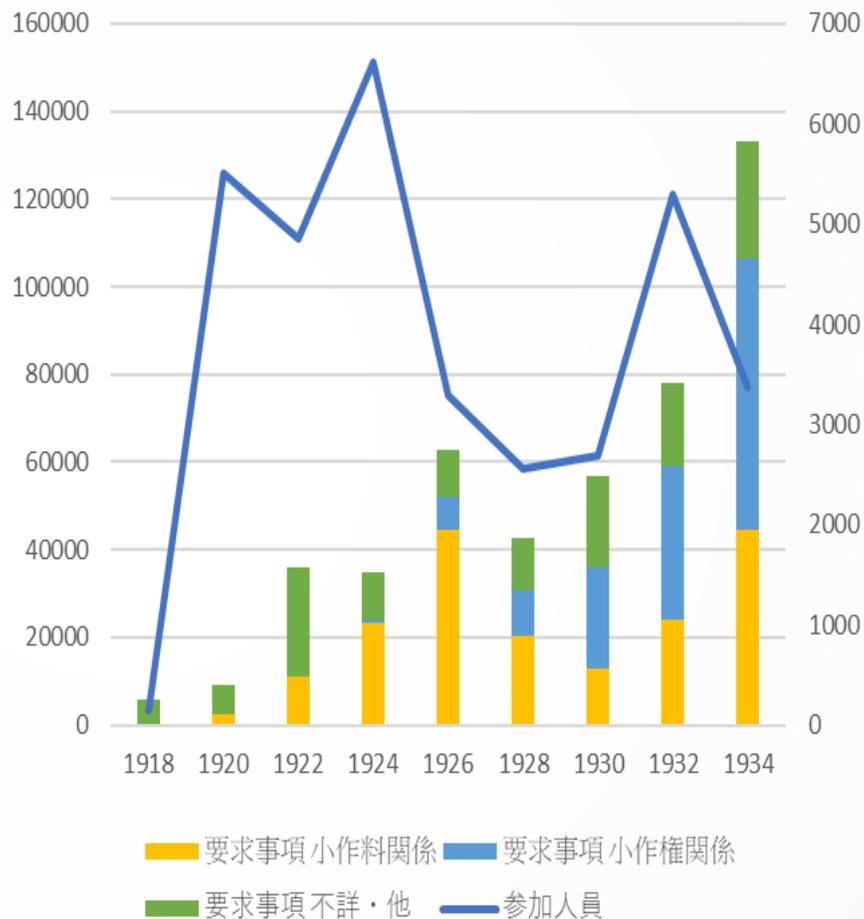
農村の不況 と小作争議 の激化



261 農村の不況 娘を売りたい親はいない。それが日常時になったところに昭和恐慌の深刻さがあらわれていた。北沢楽天画。

娘を売りたい親はいない！

小作争議・件数・参加数・要求



恐慌期は**土地
取り上げ反
対・耕作権確
保**など防衛的
内容が多い。
参加者はへる
が、件数は増
加、内容の深
刻さが増す。

**東北や甲信。
地方中心に**

小作料関係：
小作料引き下
げなど
小作権関係：
土地取り上げ
反対・耕作権
確保など

昭和恐慌2 不穏な動き

恐慌下の人々の不満を背景に、軍部・右翼はクーデタ未遂事件をおこしたり、テロ活動を活発化させる

ついには、独断で軍事行動を起こす

内閣	年・月	事項
浜口雄幸	1930. 9 (昭和5)	橋本欣五郎陸軍中佐ら中堅将校，秘密結社「桜会」を結成
	11	浜口首相，東京駅で佐郷屋留雄に狙撃され重傷(翌年死亡)
	1931. 3	三月事件 桜会が中心となり，宇垣軍部内閣樹立をめざすが
若槻②	9	柳条湖事件 満州事変の発端となった事件
	10	十月事件 桜会と大川周明のクーデタ計画，未遂
犬養毅	1932. 2~3	血盟団事件 井上準之助前蔵相と団琢磨* が射殺される
	5	五・一五事件 海軍青年将校らが犬養首相を射殺
斎藤実	1933. 2	作家小林多喜二，特高により東京の築地署で虐殺される
	4	滝川事件 京都帝大教授滝川幸辰への休職処分
岡田啓介	1934. 10	陸軍パンフレット事件 陸軍省が軍事優先の国防国家提唱
	11	士官学校事件 陸軍皇道派青年将校らのクーデタ未遂
	1935. 2	天皇機関説問題 菊池武夫，美濃部達吉の憲法学説を批判
	8	国体明徴声明 政府が天皇機関説を否定
		相沢事件 皇道派と統制派の対立表面化
	10	第2次国体明徴声明
	1936. 2	二・二六事件 陸軍皇道派青年将校らによるクーデタ
ひろた 広田	5	軍部大臣現役武官制復活

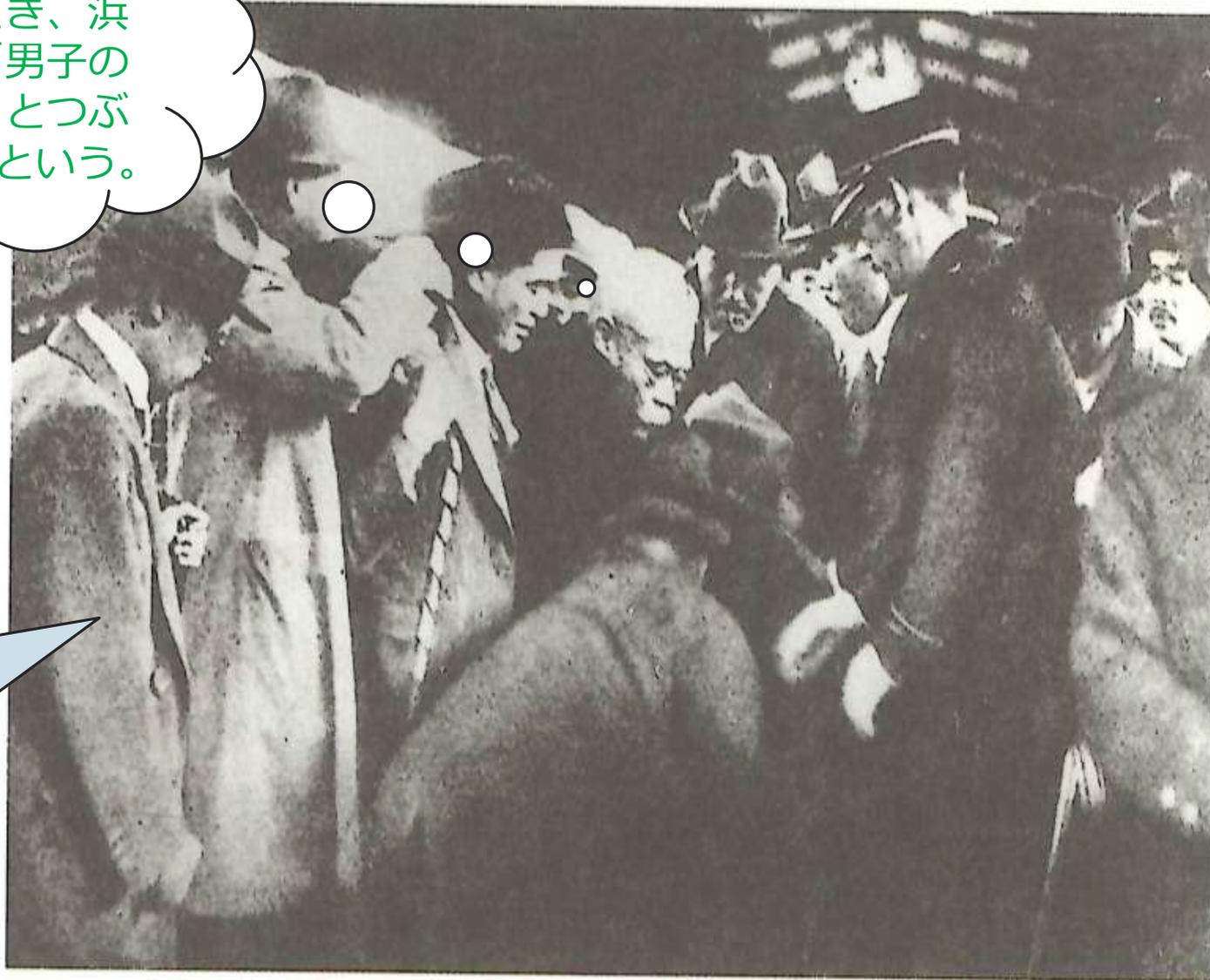
金解禁の中心人物井上準之助も暗殺される

*三井合名会社理事長。

浜口首相 の遭難

このとき、浜口は「男子の本懐」とつぶやいたという。

浜口首相は1930年11月右翼青年に腹部を撃たれた。その国会答弁にも立つが病状が悪化、4月首相を辞任。8月死亡した。



満州事変の発生

1931年9月18日、関東軍（日本軍の満州守備軍）が「満州」の奉天郊外の柳条湖で中国側の攻撃を受けたと称し軍事行動を開始。「満州事変」の始り

新聞は、関東軍の行動を支持し、陸軍中央さらには政府も容認。十五年戦争開始

最初は軍中央も内閣も不拡大に動いたが



林朝雄軍司令官 本門第三師團長 坂田第三十九師團長

事態を拡大するな！

けふ緊急閣議の結果陸相より
關東軍司令官に

待については政府は事態を拡大せしめざるやう努むる方針に決し、軍司令官に訓令せり

責任は支那側にあり

林奉天總領事の逆襲

【外務省消息】支那の最近の軍事行動は、日本利益を侵害するものあり、日本は自衛の必要を認め、必要の兵力を派遣し、自衛の行動に踏み出す。北門外は外人も結集し、支那兵の攻撃が市内に及ぶは至大であるから特に御配慮を煩はしたい。支那兵の攻撃は、支那兵の無謀な行動に起因するものあり、責任は支那側にあり、日本は自衛の必要を認め、必要の兵力を派遣し、自衛の行動に踏み出す。



守れ 満蒙-帝國の生命線

日本民族の血と汗の
結晶！ 特殊權益
断じて侵害を許さず

南滿洲鐵道經營



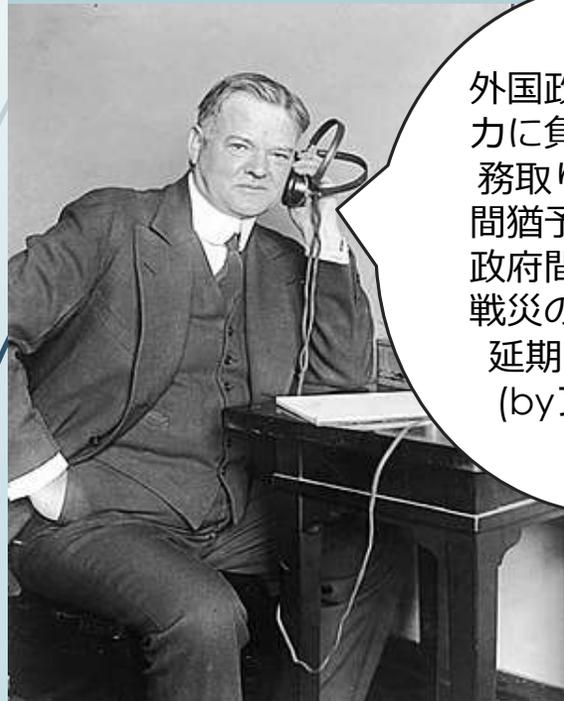
滿洲事變導火線

何故日本は起つた？
權益蹂躪と排日
この暴戾の事實を見よ

關東州の租借

遠因

世界恐慌の深刻化
「金本位」体制
崩壊へ



外国政府がアメリカに負っている債務取り立てを1年間猶予する。各国政府間でも賠償と戦災の取り立てを延期してほしい
(byフーバー)

1931年5月 オーストリア最大の銀行破綻
←東欧の農業恐慌の深刻化が背景

6月 ドイツでの不況深刻化 = 「取り付け騒ぎ」
首相「賠償金支払い能力の限界」と言明

↓
米大統領、賠償金等国際債務の1年間支払猶予
(フーヴァーモラトリアム) 実施を提案

↓
7月 ドイツ、外国資金を凍結 (金本位制離脱)

↓
イギリスにおける金正貨の支払い要求殺到
9月21日 金本位制の離脱とポンド切り下げを決定
→英連邦やスカンジナビア諸国追随

↓
世界で金本位制崩壊の観測広がる
アメリカからの金流出→公定歩合引き上げ！
日本でも円売りドル買いの動き活発化

1931年12月 日本、金輸出再禁止 (金本位制離脱)

1933年3月 アメリカ、事実上の金本位制離脱に

金解禁政策 の終焉



⑪ 井上準之助
(1869 ~ 1932)

1931年6月第二次若槻内閣（井上蔵相留任）

- 9月18日 柳条湖事件（→満州事変開始）
- 9月21日 イギリス、金本位制からの離脱
→世界で金本位制崩壊の観測広がる

財閥系大銀行などによる円売りドル買い
（→金流出）活発化



井上蔵相、金統制売り・公定歩合引き上げ
などで対抗



安達内相の挙国一致内閣の提唱→閣内不一致に

12月11日 第二次若槻内閣総辞職
= **「金解禁」政策の破綻**

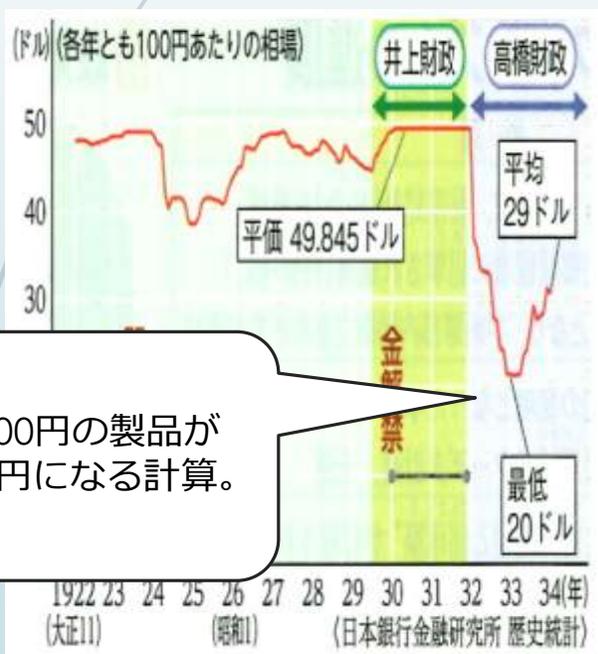
12月13日 犬養内閣成立・高橋財政の開始
「金輸出再禁止」 = 金本位制離脱

円売ドル買いの実態

単位：百万円

ナショナルシティ銀行	2,73
住友銀行	64
三井銀行	56
三菱銀行	53
香港上海銀行	40
三井物産銀行	40
朝鮮銀行	34
三井信託銀行	13
その他	1,87
正金ドル売り総額	7,60

高橋財政 金輸出 再禁止



100円の製品が
40円になる計算。

1931 (S6) 年12月 犬養毅政友会内閣成立
大蔵大臣は**高橋是清元首相**

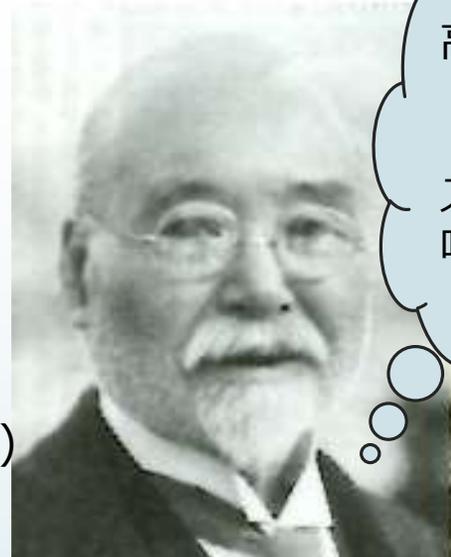
①**金輸出再禁止 = 管理通貨制度**に移行
→準備金とは無関係に通貨を発行できる。

②大量の**赤字国債を低金利で発行**
→大部分を日銀が引き受ける (非募債発行)
→**通貨量の拡大 (8倍強に)**をはかる。
(→その後、日銀を通して国債を販売)

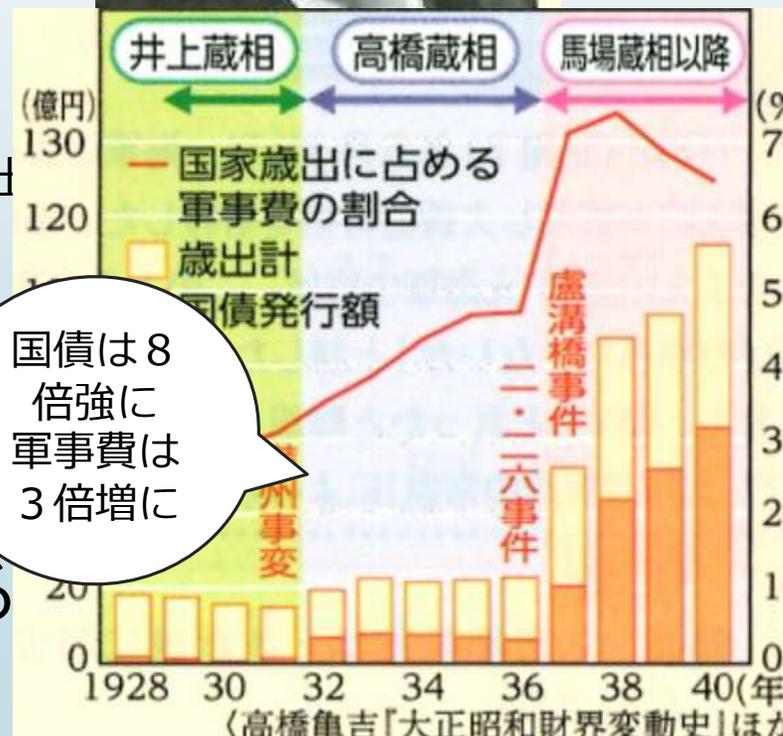
↓
インフレの発生 = 円暴落による円安効果
→激安の綿製品などをアジアなどに輸出

③**積極財政の展開**・公共事業の展開
→**軍需予算の拡大**
= 重化学工業の急速な回復
→**農村にたいする時局匡救事業**など

恐慌から最も早く脱出する

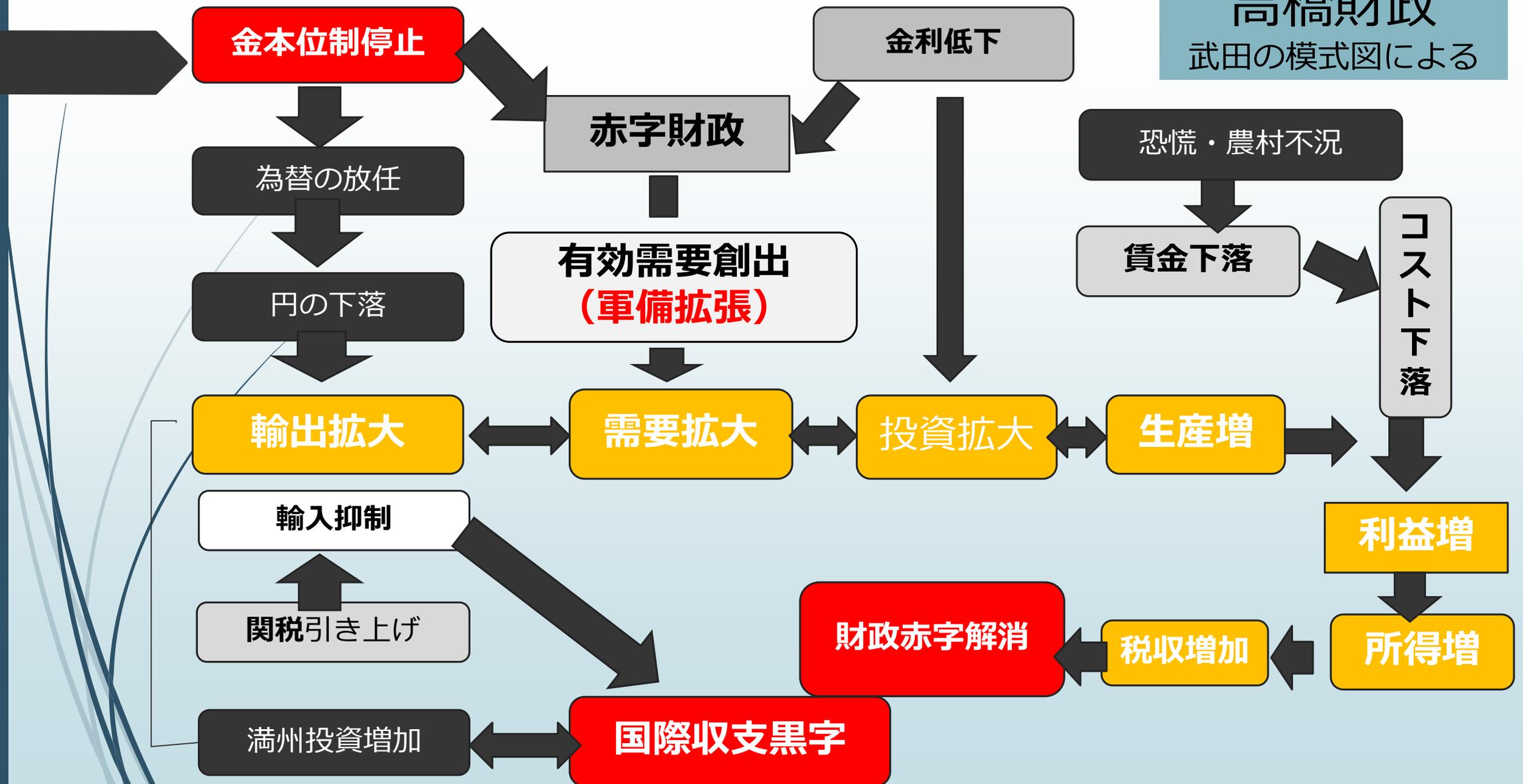


高橋是清
「日本の
ケインズ」
とも
呼ばれる



高橋財政

武田の模式図による



高橋財政 綿工業の急速 な海外進出

価格は1931年にかけて急落するが、生産高は最低でも90%前後。以後、価格上昇とともに生産が急上昇する

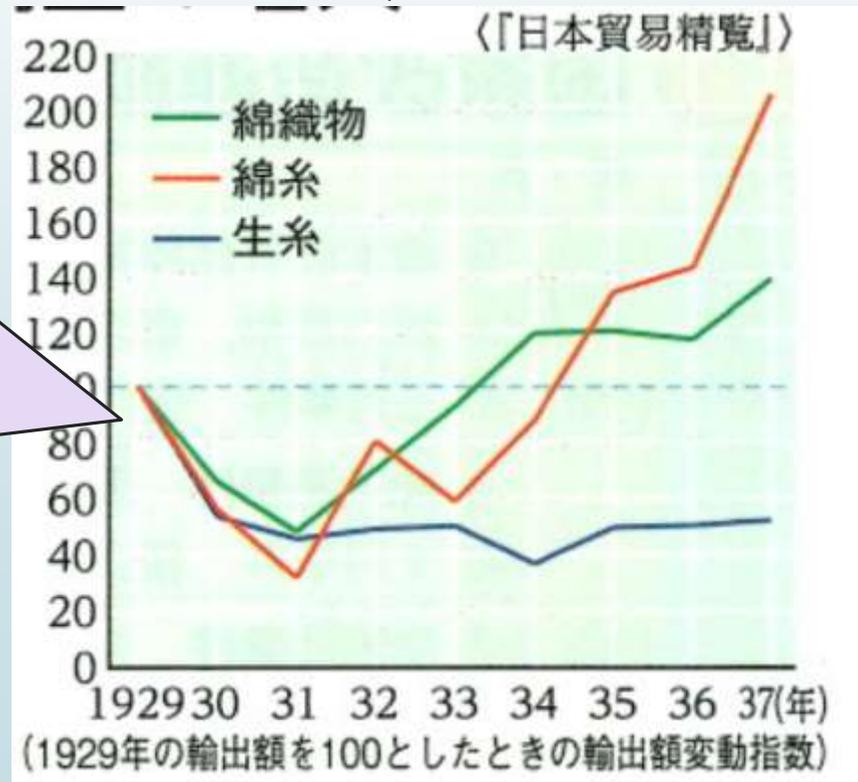
貿易量の増加

蘭領インド（現インドネシア）における綿布のシェアの変化

日本製 41% → 84%
オランダ製 28% → 5%
イギリス製 20% → 3%



日本の急激な輸出拡大は不正な廉売（ソシアルダンピング）欧米諸国の強い反発を買う

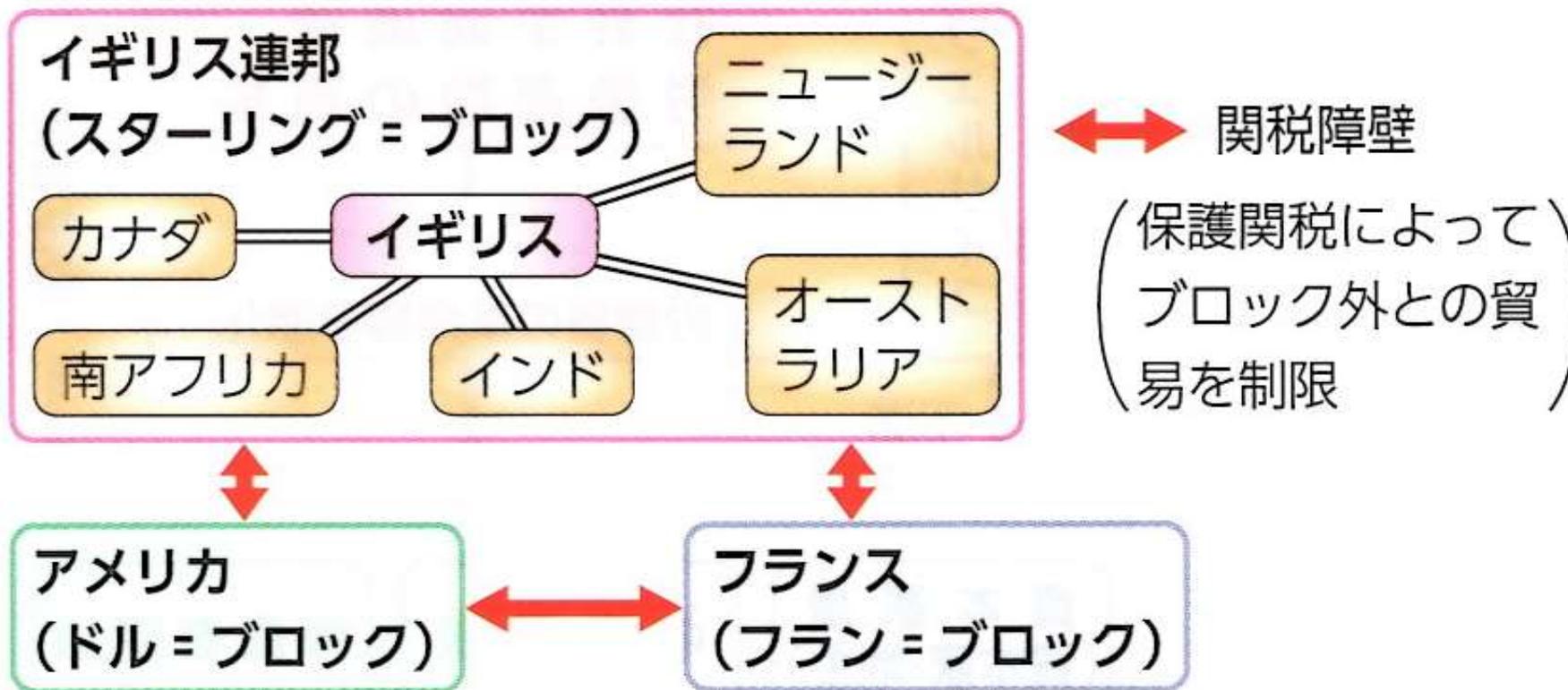


ブロック経済

ブロック経済

自国領や勢力圏を関税障壁で囲み、他国との輸出入を制限しようという保護主義的政策

● ブロック経済



大恐慌下の世界

保護主義の広がり
ブロック経済の導入

修正資本主義の導入
国家が経済活動に介入

イギリス

- 第2次マクドナルド内閣 → 失業保険削減
- マクドナルド^{キョコク}挙国一致内閣 → 金本位制停止(1931)
- ウェストミンスター憲章(1931) P.207 1年
- オタワ連邦会議(1932 スターリング=ブロック結成)

フランス

- 植民地経済会議(1934 フラン=ブロック形成)
- 仏ソ相互援助条約(1935)
- 人民戦線内閣の成立(1936 首班ブルム)

アメリカ

- フーヴァー=モラトリアム
- ニューディール(新規まき直し)
- 善隣^{ぜんりん}外交政策 → 中南米諸国との貿易活発化

持てる国

ドイツ

- ナチ党内閣(1933 首班ヒトラー)

イタリア

- ファシスト党内閣 → エチオピア侵攻(1935~36) P.254 写

日本

- 第2次^{わかつきれいじろう}若槻礼次郎内閣
→ ^{いぬかいつし}犬養毅内閣, 「満州国」建国宣言(1932)

ソ連(社会主義国)

- 第1次五カ年計画(1928~32) P.239 7
- 第2次五カ年計画(1933~37)
- 農業の集団化(コルホーズ, ソフホーズ)

経済的基盤

持たざる国

ファシズムの台頭

植民地・勢力圏の再編を要求

高橋財政がもたらしたもの

別ランキング

数字の変化の大ききさにも注目

武田

重化学工業が半数を占める。とくに鉄鋼が首位に

綿糸・綿織物はこれまで通りの地位に戻る

絶対エースの生糸はここに

船舶がランク内に復活するなど軍事的要素が復活する

凡例
 <製品名>

赤系統：重化学工業
 緑系統：綿系統工業
 黄系統：絹系統工業

<数字>

ゴチ：大きな変化
 着色：顕著なもの

<備考>

出：輸出関連
 入×：輸入停止
 内：内需関連

1919		1929		1937	
生糸	780 出	生糸	795 出	鉄鋼	1645 軍・重工業化
綿糸	763 出・内	鉄道	750 都市・インフラ	綿糸	1054 出
小幅織物↓	453 内	綿糸	678 出・内※	鉄道	909 都市・インフラ
石炭	442 旧エネ	電力	658 新エネ	電力	835 新エネ
鉄道	401 インフラ	広幅織物	526 出	広幅織物	735 出
小幅絹織物↓	397 内	鉄鋼	378 軍縮?	生糸	510 出・不振
海運↓	378 好況	清酒	301 内消費	工業薬品	505 化学
鉄鋼	372 入×軍	石炭	245 旧エネ	石炭	379 原料
軍工廠	315 軍需	軍工廠	208 軍縮	軍工廠	355 軍拡
船舶 ↓	312 好況出軍	製紙	190 内文化	↑毛糸	335 満州?
広幅織物	312 出	↑印刷	186 内文化	↑人絹糸	332 内出化学
清酒	240 内消費	毛織物↓	176 内消費	製紙	326 内文化
電力	183 新エネ	製糖↓	158 内消費	清酒	316 内消費
製紙	151 内文化	↑小麦粉↓	146 内消費	肥料	311 農・化学
毛織物	122 内消費	肥料	132 内農業	↑電気機械	296 重工
肥料	111 入×化農	↑広幅絹織物↓	130 出	↑人絹織物	285 内出化学
製糖	104 内消費	↑工業薬品	115 化学	印刷	259 内文化
↑撚糸	101	↑製材↓	112 内震災?	非鉄金属	241 重工・軍
非鉄金属	98 入×軍	非鉄金属	102 軍	↑船舶	225 軍需

大戦景気

1920年代・軍縮

昭和恐慌・満州事変・日中戦争へ

高橋財政の 残したものの



高橋は1936年、
226事件で暗殺
される。

- ① **円安誘導**による輸出振興と高関税による外国製品のしめだし
→「ソシアルダンピング」との批判 = **世界の保護主義化を促進**
→円ブロック経済形成へ
- ② **赤字国債大量発行** = 日銀の全額引受・販売 → 通貨量増加と調整
→他の資金需要の増加 → 国債購入者の減少 = **国債の売れ残り**
→**財政引き締め** = **軍事費抑制の必要**へ
- ③ **軍事費増加と公共事業の実施**
→ **軍事費の際限ない増大**
- ④ **重化学工業の発展** = 新興財閥の登場
- ⑤ **農村恐慌には不十分な対応**
→時局匡救事業3年で打切り → 農山漁村経済更生運動へ
- ⑥ **物価の上昇**にもかかわらず、**賃金上昇は抑制** = **実質賃金の下落**
→経済格差の拡大 = **庶民の生活は楽になったのか？**



なぜ「昭和恐慌」 なのか

- ▶ 第一に昭和恐慌はかつてなく広く、深く、長い恐慌であった。
- ▶ 第二に(略)テロ、クーデター、社会運動の激化など政治危機を引き起こし、国内的にはファシズム、国外的には満州事変(...)に始まる15年戦争の引き金となった。
- ▶ 第三にエロ・グロ・ナンセンスという言葉に象徴されるような享樂的大衆文化を生み出し、文化的にも明治以来の激変をもたらした。
- ▶ 昭和恐慌は、その後の日本の運命を変えるほどの歴史的な大事件であったのである。(中村P7)